

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	
1	×:非該当	基礎理化学	開講時期	1年前期	小池 武則	
			授業時間	60		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士は対象者の運動を理解する必要がある。運動はそもそも神経系の指令によっておこり、その結果、筋肉が働き、関節が動くことで運動が完成する。理学療法士として13年間整形外科病院に勤務した経験から、前半は神経についてを講義する。後半は人体の運動を物体の移動と捉え、力学的な観点から運動を分析する基礎を講義する。これらを用いて人体の運動を理解する方法を学んでいく。					教科書(著者/書名/発行所) ①奈良勲 監修「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」医学書院 ②宮本省三・他 著『人間の運動学』協同医書出版 ③奈良勲 監修「標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版」医学書院	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥					キーワード ①感覚神経 ②運動神経 ③脊髄 ④末梢神経 ⑤力学 ⑥てこ・モーメント ⑦立位姿勢 ⑧歩行	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	神経のはたらき	感覚神経・運動神経・自律神経			小池
第2回	2	神経系の概要	中枢神経と末梢神経			小池
第3回	2	神経細胞	細胞の構成と活動電位について			小池
第4回	2	神経線維	神経線維と興奮伝導について			小池
第5回	2	感覚入力	感覚がどのように認知されるのか			小池
第6回	2	運動出力	脳からどのように運動がおこるのか			小池
第7回	2	脊髄	脊髄の概形			小池
第8回	2	脊髄	脊髄の伝導路			小池
第9回	2	神経叢と末梢神経	腕神経叢と腰神経叢			小池
第10回	2	神経叢と末梢神経	仙骨神経叢と体幹の末梢神経			小池
第11回	2	感覚入力まとめ	受容器から脳までの認知過程			小池
第12回	2	感覚入力まとめ	受容器から脳までの認知過程			小池
第13回	2	運動出力まとめ	脳から効果器までの出力過程			小池
第14回	2	運動出力まとめ	脳から効果器までの出力過程			小池
第15回	2	総括	今まで学んだ内容を臨床的に活用する。			小池
第16回	2	力学の基礎	ベクトル、円運動と並進運動について			小池
第17回	2	力学の基礎	速度・加速度・変位について			小池
第18回	2	力学の基礎	ニュートンの運動法則について			小池
第19回	2	力学の基礎	仕事・エネルギー・運動量について			小池
第20回	2	てこ	トルクとモーメント、てこの性質、平衡について。			小池
第21回	2	てこ	国家試験問題解説			小池
第22回	2	てこ	国家試験問題解説			小池
第23回	2	てこ	国家試験問題解説			小池
第24回	2	てこ	人体の運動をてこで表現する。			小池
第25回	2	立位姿勢	立位姿勢と安定性			小池
第26回	2	立位姿勢	立位での姿勢戦略			小池
第27回	2	バイオメカニクス	歩行			小池
第28回	2	バイオメカニクス	歩行			小池
第29回	2	バイオメカニクス	歩行			小池
第30回	2	総括	今まで学んだ内容を臨床的に活用する。			小池
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
2	×:非該当	医療概論	開講時期	1年前期	持田 誠		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として10年整形外科系病院で勤務した経験から医療に関する歴史や定義を通じて、我が国における医療の位置づけを学ぶ。近年、取り上げられることが多くなってきている予防領域についても学習する					教科書(著者/書名/発行所) 細田 多穂 著/理学療法概論テキスト/南江堂		
教育目標該当項目 ③④⑤⑥					キーワード 医療と理学療法、保険・福祉と理学療法、予防・スポーツと理学療法、医療の注意		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	医療における理学療法	理学療法の定義と技術		持田		
第2回	2	医療における理学療法	理学療法の歴史とリハビリテーション		持田		
第3回	2	医療における理学療法	理学療法と歴史(医学モデル・社会モデル)		持田		
第4回	2	医療における理学療法	理学療法の対象		持田		
第5回	2	医療における理学療法	理学療法の領域		持田		
第6回	2	保健・福祉における理学療法	保健・福祉の場の実際		持田		
第7回	2	保健・予防における理学療法	地域包括ケアなどの実際		持田		
第8回	2	教育・研究における理学療法	教育現場・研究現場の実際		持田		
第9回	2	スポーツにおける理学療法	スポーツ現場の実際		持田		
第10回	2	理学療法士の職能	教育制度と直接診療		持田		
第11回	2	医療上の管理	リスクやカルテ管理		持田		
第12回	2	医療事故	インシデント・アクシデント		持田		
第13回	2	医療訴訟	基本的理念		持田		
第14回	2	感染予防	標準予防策		持田		
第15回	2	総括	まとめ		持田		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	小川紀子	
3	×:非該当	コミュニケーション論	開講時期	1年前期	担当者	小川紀子	
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	講義
科目概要・目的 医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、コミュニケーションの基本的スキルを身に着ける演習及び傾聴の意味を理解し、医療人・社会人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。理学療法士として一般病院5年間、介護老人保健施設8年間の実務経験を活かした授業である。					教科書(著者/書名/発行所) 山口美和「PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド」医学書院		
					キーワード コミュニケーション・対人関係技法・医療面接・インフォームドコンセント・個人情報・情報管理・プロフェッショナルリズム		
教育目標該当項目 ①③④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	コミュニケーションとは	接遇の5原則について理解する。		小川		
第2回	2	自分を理解する	自分の性格・態度・傾向を知る。		小川		
第3回	2	コミュニケーション力①	みる力を養う演習		小川		
第4回	2	コミュニケーション力②	きく力を養う演習		小川		
第5回	2	コミュニケーション力③	伝える力を養う演習		小川		
第6回	2	自立と自律	自己管理・自己実現		小川		
第7回	2	社会人としてのマナー①	挨拶の演習		小川		
第8回	2	社会人としてのマナー②	電話の掛け方演習		小川		
第9回	2	社会人としてのマナー③	手紙の書き方演習		小川		
第10回	2	社会人としてのマナー④	報告・連絡・相談の重要性を理解する。		小川		
第11回	2	医療面接①	医療面接演習(基本的注意事項)		小川		
第12回	2	医療面接②	医療面接演習(患者・家族との対話)		小川		
第13回	2	医療面接③	医療面接演習(他職種との対話)		小川		
第14回	2	ボランティアとは	ボランティアについて理解する。		小川		
第15回	2	学外演習	学外演習		小川		
評価方法		課題の提出状況及び試験の結果を総合的に判断する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
4	○:該当	心理学	開講時期	1年前期	井古田 大介		
			授業時間	30			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位
科目概要・目的 臨床心理士・公認心理師として精神科・心療内科病院13年の実務経験を活かし、人間理解の方法を心理学的観点から解説する。演習形式を取り入れながら、幅広く学び、科学としての心理学の持つ方法論、研究内容、日常生活への応用などについて理解を深める。また、さまざまな心理アセスメント方法を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 鈴木伸一(編)「対人援助と心のケアに活かす心理学」有斐閣ストゥディア		
教育目標該当項目 ①④					キーワード アセスメント 心理検査 インタビュー面接		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	総論	心理学とは		井古田		
第2回	2	知覚と認知	知覚と認知の心理の働きを理解する。		井古田		
第3回	2	感情	感情と情緒の心理の働きを理解する。		井古田		
第4回	2	欲求と動機	欲求と動機の心理の働きを理解する。		井古田		
第5回	2	発達(1)	発達の心理(誕生から学童期)の働きを理解する。		井古田		
第6回	2	発達(2)	発達の心理(青年期から老年期)の働きを理解する。		井古田		
第7回	2	学習(1)	学習の心理(古典的条件づけ)の働きを理解する。		井古田		
第8回	2	学習(2)	学習の心理(オペラント条件づけ)の働きを理解する。		井古田		
第9回	2	学習(3)	学習の心理(観察学習)の働きを理解する。		井古田		
第10回	2	記憶	記憶の心理の働きを理解する。		井古田		
第11回	2	人格	人格の心理の働きを理解する。		井古田		
第12回	2	心理検査(1)	質問紙法について理解する。		井古田		
第13回	2	心理検査(2)	投影法・作業検査法について理解する。		井古田		
第14回	2	心理検査(3)	知能検査について理解する。		井古田		
第15回	2	まとめ	総括		井古田		
評価方法	小テスト、期末試験の結果だけでなく、出席態度、演習への取り組み方などを含め、総合的に判断する。						

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
5	○:該当	人間発達学	開講時期	1年後期	小松 昌久	講義	
			授業時間	15			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
科目概要・目的 理学療法士として35年間、一般病院等での小児領域に対するリハビリテーションの経験を活かした講義で、子どもの発達を通し運動獲得の過程を学び動作獲得のための運動療法実施のための背景に役立つように学習を進める。運動獲得と心身の成長について学び関わり方について説明できるようにする。					単位数	1単位	
教育目標該当項目 ①②					教科書(著者/書名/発行所)	上杉雅之 監修『イラストでわかる人間発達学』医歯薬出版	
					キーワード	運動発達・精神社会的発達・発達検査	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	発達とは。概念,理論	発達の言葉の定義と理論について説明できる。		小松		
第2回	2	運動発達0-3	生後0か月から3ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。		小松		
第3回	2	運動発達4-6	生後4か月から6ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。		小松		
第4回	2	運動発達7-9	生後7か月から9ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。		小松		
第5回	2	運動発達10-12	生後10か月から12ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。		小松		
第6回	2	姿勢・反射・反応	原始反射・姿勢反射について姿勢獲得の時期と関連付けて説明できる。		小松		
第7回	2	発達検査	様々な発達検査について概要を説明できる。		小松		
第8回	2	身体の発達	身体的な変化と姿勢・動作獲得が関連づけて説明できる。		小松		
評価方法		ミニテスト10%期末テスト80%授業態度10%で評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	臂 貴紀
6	×:非該当	情報統計論	開講時期	1年前期	担当者	臂 貴紀
			授業時間	30		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 パソコンを用いた報告書を作成する能力を身につける。また、理学療法実践者として、先人たちの記述した論文や、検査結果の判定に用いられる基準値、基準範囲について学び、対象者の問題に側した情報を集め、知識を整理し、解決のための行動をとれるようにする。					教科書(著者/書名/発行所) Microsoft Word, Excel, PowerPoint同等のソフトがインストールされたパソコンを用意してください。	
教育目標該当項目 ②③⑥					キーワード 記述統計、感度、特異度、尤度比、有意差	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	パソコンの基本操作	基本的なパソコンの操作方法を学ぶ。		臂	
第2回	2	〃	オンライン講義の受講のために必要な操作・知識を身に着ける。		臂	
第3回	2	システムの利用	学びばこの使用方法等を理解する。		臂	
第4回	2	〃	google class roomでのグループワークなどを行える。		臂	
第5回	2	Word	基本的な書類作成ができる。		臂	
第6回	2	〃	ジェノグラム等の学習と共に図形や画像の操作が行える。		臂	
第7回	2	Excel	基本的な表計算ができる。		臂	
第8回	2	〃	表計算で求めた値をグラフや表にまとめることができる。		臂	
第9回	2	医療統計	データの尺度、特性値、グラフの種類		臂	
第10回	2	〃	標本、正規分布、平均、有意確立		臂	
第11回	2	〃	基準値、基準範囲、感度、特異度		臂	
第12回	2	〃	帰無仮説、検定方法の種類		臂	
第13回	2	〃	1標本の差の検定		臂	
第14回	2	〃	2標本の差の検定		臂	
第15回	2	〃	相関		臂	
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	菊地 潤
7	×:非該当	基礎運動学	開講時期	1年通年	担当者	菊地 潤
			授業時間	60		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位
科目概要・目的 理学療法士として診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、筋骨格・関節運動学などの基礎的知識から、人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続する仕組みについて解剖学、生理学、その他の基礎医学での知識を統合して学習を進めていく。主に動作での関節運動の記載方法から支持基底面や重心の関係、力学的な分析を行う。					教科書(著者/書名/発行所) 宮本省三・他 著『人間の運動学』協同医書出版 石井慎一郎 編著「動作分析臨床活用講座」メディカルビュー社	
教育目標該当項目 ②					キーワード 関節運動学・運動学習・起居移動動作	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	肩関節複合体の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地	
第2回	2	肩の運動学①	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第3回	2	肩の運動学②	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第4回	2	肘関節・前腕・手関節の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地	
第5回	2	肘・前腕・手関節の運動学	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第6回	2	手部・手指の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地	
第7回	2	手の運動学	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第8回	2	股関節の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地	
第9回	2	股の運動学①	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第10回	2	股の運動学②	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第11回	2	膝関節の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地	
第12回	2	膝の運動学①	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第13回	2	膝の運動学②	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第14回	2	足関節の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地	
第15回	2	足関節の運動学	特徴を知り、運動を理解する。		菊地	
第16回	2	歩行①	正常の歩行のメカニズムを理解する。		菊地	
第17回	2	歩行②	正常の歩行のメカニズムを理解する。		菊地	
第18回	2	歩行③	歩行を観察し、分析・記載ができる。		菊地	
第19回	2	歩行④	歩行を観察し、分析・記載ができる。		菊地	
第20回	2	寝返り①	正常の寝返りのメカニズムを理解する。		菊地	
第21回	2	寝返り②	寝返りを観察し、分析・記載ができる。		菊地	
第22回	2	寝返り③	寝返りを観察し、分析・記載ができる。		菊地	
第23回	2	起き上がり①	正常の起き上がりのメカニズムを理解する。		菊地	
第24回	2	起き上がり②	起き上がりを観察し、分析・記載ができる。		菊地	
第25回	2	起き上がり③	起き上がりを観察し、分析・記載ができる。		菊地	
第26回	2	立ち上がり①	正常の立ち上がりのメカニズムを理解する。		菊地	
第27回	2	立ち上がり②	正常の立ち上がりのメカニズムを理解する。		菊地	
第28回	2	立ち上がり③	立ち上がりを観察し、分析・記載ができる。		菊地	
第29回	2	立ち上がり④	立ち上がりを観察し、分析・記載ができる。		菊地	
第30回	2	総括	まとめ		菊地	
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	臂 貴紀
8	×:非該当	医療基礎統合論	開講時期	1年後期	担当者	臂 貴紀
			授業時間	60		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士として5年間、病院や介護施設で勤務した経験を活かした授業で、1年次に学習した各種人体構造学と各種障害学を統合した理解を図る。その中でも理学療法の対象として多い疾患や障害を解剖学や生理学的に理解し、国家試験問題へと繋げる。					演習	
					教科書(著者/書名/発行所)	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥					国家試験必修ポイント ①基礎医学 ②臨床医学 医歯薬出版	
					キーワード 各疾患と解剖・生理学 国家試験対策	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	運動生理	運動と消化器		小池	
第2回	2	運動生理	運動と循環		小池	
第3回	2	運動生理	運動と呼吸		小池	
第4回	2	運動生理	運動と代謝		小池	
第5回	2	運動生理	運動と中枢神経		小池	
第6回	2	運動生理	運動と末梢神経・筋		小池	
第7回	2	運動生理	運動と骨		小池	
第8回	2	運動生理	統合		小池	
第9回	2	運動生理	統合		小池	
第10回	2	運動生理	統合		小池	
第11回	2	運動生理	統合		小池	
第12回	2	運動器系	運動器系の解剖と生理と骨粗鬆症繋がりを繋げる		臂	
第13回	2	"	運動器系の解剖と生理と大腿骨頸部骨折を繋げる。		臂	
第14回	2	"	運動器系の解剖と生理と変形性関節症を繋げる。		臂	
第15回	2	国家試験対策	運動器の共通・専門国家試験対策		臂	
第16回	2	循環器系	循環器系の解剖と生理と心不全を繋げる。		臂	
第17回	2	"	循環器系の解剖と生理と冠動脈疾患を繋げる。		臂	
第18回	2	"	循環器系の解剖と生理と心電図の異常を繋げる。		臂	
第19回	2	呼吸器系	循環器の共通・専門国家試験対策		臂	
第20回	2	"	呼吸器系の解剖と生理とCOPDを繋げる。		臂	
第21回	2	"	呼吸器系の解剖と生理と肺気腫を繋げる。		臂	
第22回	2	国家試験対策	呼吸器系の共通・専門国家試験対策		臂	
第23回	2	神経系	神経系の解剖と生理と脳血管障害を繋げる		臂	
第24回	2	"	神経系の解剖と生理とパーキンソン病を繋げる		臂	
第25回	2	"	神経系の解剖と生理とSCD・ALSを繋げる		臂	
第26回	2	国家試験対策	神経系の共通・専門国家試験対策		臂	
第27回	2	代謝系	代謝系の解剖と生理と糖尿病を繋げる。		臂	
第28回	2	"	代謝系の解剖と生理と運動の効果を繋げる。		臂	
第29回	2	国家試験対策	代謝系の共通・専門国家試験対策		臂	
第30回	2	まとめ	総復習		臂	
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
9	×:非該当	人体構造機能学 I	開講時期	1年前期	持田 誠		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として10年整形外科系病院で勤務した経験から理学療法を行なうためには、人体に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。そこで、人体の構造と仕組み・機能について理解することを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 標準理学療法学・作業療法学 解剖学、生理学 医学書院		
					キーワード 細胞、感覚器、血液、体温調節、末梢神経、自律神経		
教育目標該当項目 ②							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	人体の概観	方向を示す用語			持田	
第2回	2	人体の概観	発生			持田	
第3回	2	人体の概観	人体の区分			持田	
第4回	2	人体の概観	人体の部位			持田	
第5回	2	人体の概観	系統別の役割			持田	
第6回	2	感覚器	視覚器の機能と構造			持田	
第7回	2	感覚器	視覚器の機能と構造			持田	
第8回	2	感覚器	平衡聴覚器の機能と構造			持田	
第9回	2	感覚器	平衡聴覚器の機能と構造			持田	
第10回	2	感覚器	皮膚の受容器の機能と構造			持田	
第11回	2	感覚器	皮膚の受容器の機能と構造			持田	
第12回	2	感覚器	体性感覚			持田	
第13回	2	感覚器	内臓感覚			持田	
第14回	2	感覚器	味覚			持田	
第15回	2	まとめ	まとめ			持田	
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	菊地 潤
10	×:非該当	人体構造機能学Ⅱ	開講時期	1年前期	担当者	菊地 潤
			授業時間	30		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位
科目概要・目的 理学療法士として診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、運動器系を構成する骨・関節・靭帯・骨格筋について、それらの一般的な機能と、個別の機能を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 奈良勲 監修「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」医学書院	
					キーワード ①骨の機能とそれぞれの名称 ②関節の機能とそれぞれの名称 ③骨格筋の機能とそれぞれの名称	
教育目標該当項目 ②						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	骨の構造と分類	骨の構造と分類を理解する。			菊地
第2回	2	骨吸収と骨形成	骨吸収と骨形成を理解する。			菊地
第3回	2	鎖骨、肩甲骨の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第4回	2	上腕骨、橈骨、尺骨の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第5回	2	手根骨の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第6回	2	寛骨の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第7回	2	大腿骨、脛骨、腓骨の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第8回	2	脛骨、腓骨の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第9回	2	足根骨の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第10回	2	頭蓋骨、肋骨の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第11回	2	脊椎の構造	骨の名称や場所を正確に知る。			菊地
第12回	2	関節の構造	関節の構造を理解する。			菊地
第13回	2	関節の分類と運動方向	関節の分類と運動方向を理解する。			菊地
第14回	2	筋の構造・機能・形態	筋の構造・機能・形態を理解する。			菊地
第15回	2	骨格筋の神経機構	骨格筋の神経機構を理解する。			菊地
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	臂 貴紀
11	×:非該当	人体構造機能学Ⅲ	開講時期	1年前期	担当者	臂 貴紀
			授業時間	30		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位
科目概要・目的 理学療法士として5年間、病院や介護施設で勤務した経験を活かした授業で、神経系の構造から、正常な神経の機能や役割について理解を図る。脳の各機関の役割や局在性を理解し、運動と神経生理学のつながりを理解する。					教科書(著者/書名/発行所) 解剖学 第5版、生理学 第5版(標準理学療法学・作業療法学、医学書院)	
					キーワード 神経構造、神経機能、中枢神経、末梢神経	
教育目標該当項目 ②						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	神経の区分と構成	中枢・末梢神経や髄膜・脳室について			臂
第2回	2	興奮の伝達・シナプス・接合部	伝達の仕組みと変化について			臂
第3回	2	脳幹・脊髄の構造	脳幹・脊髄の構造について			臂
第4回	2	大脳の構造	部位の名称と場所について			臂
第5回	2	末梢神経の構造	構成と脊髄神経について			臂
第6回	2	伝導路	感覚の種類と伝導路			臂
第7回	2	下行路について	運動の伝導路と神経筋接合部			臂
第8回	2	運動とは	運動制御と反射について			臂
第9回	2	中枢神経機構①	脳幹の構造と機能について			臂
第10回	2	中枢神経機構②	脳神経について			臂
第11回	2	中枢神経機構③	視床・視床下部の機能について			臂
第12回	2	中枢神経機構④	大脳基底核の機能について			臂
第13回	2	中枢神経機構⑤	小脳・大脳辺縁系の機能について			臂
第14回	2	中枢神経機構⑥	脳の機能局在について			臂
第15回	2	発声器官	口腔から生体など発生発語器官について			臂
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
12	×:非該当	人体構造機能学Ⅳ	開講時期	1年後期	山野井 裕子		
			授業時間	30時間			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	講義
科目概要・目的 人体構造(解剖)・人体機能(生理)の理解は、理学療法を行う上で必須である。この授業では、内部障害に関連する解剖学・生理学の知識を体系的に理解し、2年で学習する内部障害理学療法知識の知識に結びつけられるようにすることを目標とする。理学療法士として病院・介護保険施設で20年間勤務した経験に基づき講義を行う。					教科書(著者/書名/発行所) 解剖学 第5版、生理学 第5版(標準理学療法学・作業療法学、医学書院)		
					キーワード 血液、心臓、血管、リンパ、気管、気管支、肺、ホルモン、代謝、体温、筋収縮		
教育目標該当項目 ②							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	循環器	血液			山野井	
第2回	2	循環器	心臓の構造			山野井	
第3回	2	循環器	血管・リンパの構造			山野井	
第4回	2	循環器	心臓の刺激伝導系			山野井	
第5回	2	循環器	血液の拍出と血圧、血圧の調節			山野井	
第6回	2	循環器	微小循環と物質交換、臓器循環			山野井	
第7回	2	呼吸器	呼吸器の構造			山野井	
第8回	2	呼吸器	呼吸運動と呼吸筋			山野井	
第9回	2	呼吸器	呼吸器量と換気障害			山野井	
第10回	2	呼吸器	ガス交換と呼吸調節			山野井	
第11回	2	呼吸器	酸塩基平衡			山野井	
第12回	2	内分泌(ホルモン)	内分泌腺の種類と作用			山野井	
第13回	2	代謝と体温	栄養とエネルギー代謝、体温			山野井	
第14回	2	運動生理	筋収縮の3つのエネルギー源			山野井	
第15回	2	運動生理	運動に伴う全身の変化			山野井	
評価方法	評価指標による						

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
13	×:非該当	人体構造機能学V	開講時期	1年後期	持田 誠		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として10年、整形外科系病院で勤務した経験から理学療法を行なうためには、人体に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。そこで、人体の構造と仕組み・機能について理解することを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 標準理学療法学・作業療法学 解剖学、生理学 医学書院		
					キーワード 消化器、ホルモン、ビタミン、腎臓、排尿、排便		
教育目標該当項目 ②							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	消化器	口腔の機能と構造			持田	
第2回	2	消化器	胃の構造と機能			持田	
第3回	2	消化器	胆嚢の構造と機能			持田	
第4回	2	消化器	小腸の構造と機能			持田	
第5回	2	消化器	大腸の構造と機能			持田	
第6回	2	消化器	膵臓の構造と機能			持田	
第7回	2	消化器	肝臓の構造と機能			持田	
第8回	2	消化器	消化と吸収			持田	
第9回	2	代謝	栄養素と吸収部位			持田	
第10回	2	代謝	ホルモンとビタミン			持田	
第11回	2	代謝	糖・蛋白・脂質代謝			持田	
第12回	2	泌尿器・生殖器	腎臓の構造と機能①			持田	
第13回	2	泌尿器・生殖器	腎臓の構造と機能②			持田	
第14回	2	泌尿器・生殖器	排尿のメカニズム			持田	
第15回	2	泌尿器・生殖器	排便のメカニズム			持田	
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
14	×:非該当	人体構造機能学演習	開講時期	1年	小池 武則		
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として整形外科病院にて13年勤務した経験に基づいて、人体構造機能学で学んだ運動器系について模型や触診技術を通じて、周囲の組織との位置関係をより深く学んでいく。また、触診を演習するに至っては、理学療法士としてのコミュニケーションの一端も学んでいく。					教科書(著者/書名/発行所) 奈良勲 監修「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版」医学書院 市橋則明 編集「身体運動学」MEDICAL VIEW社		
教育目標該当項目 ①②⑥					キーワード ①四肢体幹の骨触診 ②四肢体幹の筋触診 ③四肢体幹の靭帯触診 ④四肢体幹の脈管触診		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	肩甲骨筋の構造	肩甲骨筋の名称と場所を知る。		小池		
第2回	2	肩甲骨筋の構造	〃		小池		
第3回	2	肩関節筋の構造	肩関節筋の名称と場所を知る。		小池		
第4回	2	肩関節筋の構造	〃		小池		
第5回	2	肘関節筋の構造	肘関節筋の名称と場所を知る。		小池		
第6回	2	前腕・手関節筋の構造	前腕・手関節筋の名称と場所を知る。		小池		
第7回	2	前腕・手関節筋の構造	〃		小池		
第8回	2	手内在筋の構造	手内在筋の名称と場所を知る。		小池		
第9回	2	股関節筋の構造	股関節筋の名称と場所を知る。		小池		
第10回	2	股関節筋の構造	〃		小池		
第11回	2	膝関節筋の構造	膝関節筋の名称と場所を知る。		小池		
第12回	2	足関節筋の構造	足関節筋の名称と場所を知る。		小池		
第13回	2	足関節筋の構造	〃		小池		
第14回	2	足内在筋の構造	足内在筋の名称と場所を知る。		小池		
第15回	2	頸部・体幹筋の構造	頸部・体幹筋の名称と場所を知る。		小池		
第16回	2	上肢の骨触診	肩甲骨・鎖骨・上腕骨		専任		
第17回	2	上肢の骨触診	上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨		専任		
第18回	2	下肢の骨触診	寛骨・大腿骨		専任		
第19回	2	下肢の骨触診	下腿骨・足根骨		専任		
第20回	2	頸部・体幹の骨触診	頸椎・腰椎・胸骨・肋骨		専任		
第21回	2	肩甲骨筋の触診	僧帽筋・菱形筋		専任		
第22回	2	肩関節筋の触診	三角筋・大胸筋・回旋筋腱板		専任		
第23回	2	肘関節筋の触診	上腕二頭筋・上腕三頭筋・上腕動脈・側副靭帯		専任		
第24回	2	前腕・手関節筋の触診	手関節屈筋群・橈骨動脈		専任		
第25回	2	前腕・手関節筋の触診	手関節伸筋群・尺骨動脈		専任		
第26回	2	股関節筋の触診	腸腰筋・大殿筋・中殿筋・内転筋・大腿動脈		専任		
第27回	2	股関節筋の触診	縫工筋・大腿筋膜張筋・薄筋		専任		
第28回	2	膝関節筋の触診	大腿四頭筋・ハムストリングス・膝十字靭帯		専任		
第29回	2	足関節筋の触診	前脛骨筋・腓腹筋・後脛骨動脈・外側側副靭帯		専任		
第30回	2	頸部・体幹筋の触診	胸鎖乳突筋・腹直筋・腹斜筋		専任		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
15	×:非該当	基礎病態論	開講時期	1年後期	山野井 裕子	講義	
			授業時間	30			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
科目概要・目的 本授業では病態、すなわち病気になったとき身体の正常な構造(解剖)・機能(生理学)がどのような状態になっているのかを学習する。病態の理解は、理学療法を実施する上で重要である。理学療法士として病院・介護保険施設で20年間勤務した経験に基づき講義を行う。					単位数 2 単位		
教育目標該当項目 ②					教科書(著者/書名/発行所) カラーで学べる病理学 第5版(ヌーヴェルヒロカワ) キーワード 炎症、アレルギー、進行性・退行性病変、腫瘍、奇形・遺伝病		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	病理学の領域	医学の中での病理学の位置づけを理解する。		山野井		
第2回	2	細胞・組織の障害	各論として、細胞や組織の障害を理解する。		山野井		
第3回	2	再生と修復	傷害とその後の組織の示す変化を理解する。		山野井		
第4回	2	循環障害	疾患の成因となる病態を理解する。		山野井		
第5回	2	循環障害	虚血性心疾患の成因と病態を理解する。		山野井		
第6回	2	炎症	血管・結合組織を場として起こる炎症の概念を理解する。		山野井		
第7回	2	炎症			山野井		
第8回	2	免疫とアレルギー	血球の役割とアレルギーを理解する。		山野井		
第9回	2	免疫とアレルギー			山野井		
第10回	2	代謝異常	生活習慣病(メタボリックシンドロームなど)の成因を理解する。		山野井		
第11回	2	先天異常	先天異常疾患の分類・成因を理解する。		山野井		
第12回	2	腫瘍	悪性腫瘍の発生・進展、疫学的特徴を理解する。		山野井		
第13回	2	腫瘍			山野井		
第14回	2	生命の危機	生命の危機に陥った場合の病態を理解する。		山野井		
第15回	2	まとめ	総括		山野井		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
16	×:非該当	臨床病態論	開講時期	1年後期	山下 茂	講義	
			授業時間	30			
			□実務経験のある教員による授業				
科目概要・目的 基礎医学領域と臨床医学領域の間に位置し、基礎病態論を踏まえて、様々な症候に対して行われる画像検査、生化学検査、生理検査などの諸検査の所見、治療に用いられる薬剤の薬理効果について学び、リハビリテーション医学領域を俯瞰する					単位数	2 単位	
教育目標該当項目 ②					教科書(著者/書名/発行所)		
					内山 靖/リハベーシック 生化学・栄養学 医歯薬出版社		
					内山 靖/リハベーシック 薬理学・臨床薬理学/医歯薬出版社		
					水間正澄/リハビリテーション医療に活かす画像のみかた/南江堂		
					キーワード		
					診断・画像診断・栄養素・栄養と運動・薬剤の効果・副作用・薬剤と運動		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	画像診断学 総論	画像とリハビリテーション医療の繋がりを理解する。		山下		
第2回	2	単純X線・CT	原理と見方を理解する。		山下		
第3回	2	MRI・MRA	"		山下		
第4回	2	核医学検査・エコー	"		山下		
第5回	2	蛋白とアミノ酸	栄養学の基礎として蛋白とアミノ酸の機能を理解する。		山下		
第6回	2	酵素・ホルモン	栄養学の基礎として酵素とホルモンの機能を理解する。		山下		
第7回	2	糖質・脂質の代謝	栄養学の基礎として糖質と脂質の機能を理解する。		山下		
第8回	2	ビタミン	栄養学の基礎としてビタミンの機能を理解する。		山下		
第9回	2	エネルギー代謝	栄養学の基礎としてエネルギー代謝を理解する。		山下		
第10回	2	薬の基礎と炎症	臨床薬学の基礎として必要な知識と炎症の制御を理解する。		山下		
第11回	2	神経疾患の薬物療法	神経疾患に対する薬物療法を理解する。		山下		
第12回	2	循環系疾患の薬物療法	循環系疾患に対する薬物療法を理解する。		山下		
第13回	2	疼痛の薬物療法	疼痛に対する薬物療法を理解する。		山下		
第14回	2	注意すべき頻用される薬剤	薬物療法の注意点を理解する。		山下		
第15回	2	総括	まとめ		山下		
評価方法		試験結果による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
17	○: 該当	臨床心理学	開講時期	1年前期	担当者	井古田 大介	
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 臨床心理士・公認心理師として精神科・心療内科病院13年の実務経験を活かし、人間理解の方法を心理学的観点から解説する。理学療法士として多様な精神疾患を抱える患者と向きあうためのアプローチ方法を身につける。					教科書(著者/書名/発行所) 鈴木伸一(編)「対人援助と心のケアに活かす心理学」有斐閣ストゥディア		
					キーワード 精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、抑うつ、不安		
教育目標該当項目 ③④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	抑うつに対する臨床心理学的対応①	抑うつを抱える患者の心を理解する。		井古田		
第2回	2	抑うつに対する臨床心理学的対応②	抑うつを抱える患者に対するアプローチ法を理解する。		井古田		
第3回	2	不安に対する臨床心理学的対応①	不安を抱える患者の心を理解する。		井古田		
第4回	2	不安に対する臨床心理学的対応②	不安を抱える患者に対するアプローチ法を理解する。		井古田		
第5回	2	自殺に対する臨床心理学的対応①	自殺の予防的アプローチができるようになる。		井古田		
第6回	2	発達障害に対する臨床心理学的対応①	発達障害を抱える患者の心を理解する。		井古田		
第7回	2	発達障害に対する臨床心理学的対応②	発達障害を抱える患者に対するアプローチ法を理解する。		井古田		
第8回	2	心理療法の進め方	心理療法の流れを理解する。		井古田		
第9回	2	精神分析療法①	精神分析を理解する。		井古田		
第10回	2	精神分析療法②	防衛機制を理解する。		井古田		
第11回	2	来談者中心療法①	来談者中心療法を理解する。		井古田		
第12回	2	来談者中心療法②	受容・共感・自己一致について理解する。		井古田		
第13回	2	行動療法	行動療法を理解する。		井古田		
第14回	2	認知行動療法	認知行動療法を理解する。		井古田		
第15回	2	定期試験	振り返り		井古田		
評価方法		主として定期試験の得点によって評価を行うが、小テストや授業への参加度(授業中の態度等)も参考にする。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
18	○: 該当	精神疾患論	開講時期	1年後期	岡崎 勝博		
			授業時間	30			
□実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法の実施にあたって、根幹となる精神障害者の心理および行動特性を理解しておくことが重要である。 精神障害をもたらす精神疾患の病状・成因や診断・治療について理解し、それらを基に理学療法士としての精神障害者への社会生活面での援助のあり方を習得する。					教科書(著者/書名/発行所) 上野武治 編 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版」 医学書院		
教育目標該当項目 ②③					キーワード 精神障害の診断と評価、 統合失調症、気分障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	オリエンテーション・精神医学の概念と精神医療福祉の歴史	精神医学の概念について説明できる。 精神医療福祉の歴史について説明できる。		岡崎		
第2回	2	脳とこころ・こころの病	脳とこころ、及びこころの病について説明できる。		岡崎		
第3回	2	こころの構造とはたらき(フロイト理論)	フロイト理論に於けるこころの構造とはたらきについて説明できる。		岡崎		
第4回	2	精神障害の成因と分類	精神障害の成因と分類について説明できる。		岡崎		
第5回	2	主な精神症状・主な精神状態	主な精神症状と状態について説明できる。		岡崎		
第6回	2	精神障害の診断と評価	精神障害の診断と評価について説明できる。		岡崎		
第7回	2	主な精神障害について	脳器質性精神障害及び症状精神障害について説明できる。		岡崎		
第8回	2	精神作用物質による精神及び行動の障害	精神作用物質に因る精神及び行動への障害の作用、及びてんかんの病理について説明できる。		岡崎		
第9回	2	統合失調症	統合失調症について説明できる。		岡崎		
第10回	2	気分(感情)障害・神経症性障害	気分障害及び神経症性障害について説明できる。		岡崎		
第11回	2	人格・行動・性障害 ・精神遅滞・心理的発達障害	生理的障害ほか各種障害について説明できる。		岡崎		
第12回	2	リエゾン精神医学・心身医学	リエゾン精神医学・心身医学を理解し説明できる。		岡崎		
第13回	2	ライフサイクルにおける精神医学	ライフサイクルにおける精神医学について理解し説明できる。		岡崎		
第14回	2	精神障害の治療とリハビリテーション	精神障害の治療とリハビリテーションについて説明できる。		岡崎		
第15回	2	社会・文化とメンタルヘルス	社会とメンタルヘルスの関わりについて説明できる。		岡崎		
評価方法		期末試験 ペーパーテストの内容、及び授業態度・出席時間により、統合的に評価。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
19	×:非該当	整形障害論	開講時期	1年後期	小池 武則		
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 リハビリテーションで、対象となる筋骨格系障害の病態を理解し、整形外科的治療を理解する。理学療法士として整形外科病院にて13年勤務した経験に基づいて、整形外科疾患を理学療法士の視点から運動器障害として理解する。					教科書(著者/書名/発行所) 高橋邦泰編/整形外科学テキスト/南江堂		
					キーワード ①全身性障害の病態 ②局所障害の病態 ③画像評価の方法		
教育目標該当項目 ②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	整形外科学総論①	「整形外科学について」「整形外科学的診断学」			小池	
第2回	2	整形外科学総論②	整形外科領域の画像診断			小池	
第3回	2	整形外科学総論③	「整形外科学的治療法」			小池	
第4回	2	全身性の疾患①	「慢性関節疾患」			小池	
第5回	2	全身性の疾患②	「リウマチとその類縁疾患」			小池	
第6回	2	全身性の疾患③	「リウマチとその類縁疾患」			小池	
第7回	2	全身性の疾患④	「感染症」「代謝・内分泌疾患」「骨・軟部腫瘍」			小池	
第8回	2	全身性の疾患⑤	「骨系統疾患」「骨壊死性疾患および骨端症」			小池	
第9回	2	全身性の疾患⑥	「四肢循環障害」「四肢切断および四肢欠損」			小池	
第10回	2	全身性の疾患⑦	「慢性疼痛疾患」			小池	
第11回	2	全身性の疾患⑧	「スポーツ整形外科」			小池	
第12回	2	全身性の疾患⑨	「末梢神経疾患」			小池	
第13回	2	軟部組織損傷 総論	「軟部組織損傷」			小池	
第14回	2	部位別の外傷と疾患①	「肩関節および上腕」			小池	
第15回	2	部位別の外傷と疾患②	「肘関節および前腕」			小池	
第16回	2	部位別の外傷と疾患③	「手関節と手指」			小池	
第17回	2	部位別の外傷と疾患④	上肢の外傷の画像診断			小池	
第18回	2	部位別の外傷と疾患⑤	「股関節及び大腿」			小池	
第19回	2	部位別の外傷と疾患⑥	「股関節及び大腿」「膝関節および下腿」			小池	
第20回	2	部位別の外傷と疾患⑦	「膝関節および下腿」			小池	
第21回	2	部位別の外傷と疾患⑧	「足関節と足部」			小池	
第22回	2	部位別の外傷と疾患⑨	下肢の外傷の画像診断			小池	
第23回	2	部位別の外傷と疾患⑩	「脊椎・脊髄」			小池	
第24回	2	部位別の外傷と疾患⑪	「脊椎・脊髄」			小池	
第25回	2	部位別の外傷と疾患⑫	「脊椎・脊髄」			小池	
第26回	2	部位別の外傷と疾患⑬	「脊椎・脊髄」			小池	
第27回	2	画像評価	脊椎・脊髄			小池	
第28回	2	画像評価	骨折・脱臼・関節症			小池	
第29回	2	画像評価	靭帯損傷・腱断裂・半月板			小池	
第30回	2	総括	最新の整形外科領域の動向について			小池	
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
20	×:非該当	内部障害論	開講時期	1年後期	山野井 裕子		
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 内部障害とは身体内部の障害のことである。本授業では、理学療法を実施する際に必要となる内科疾患について学習する。理学療法士として病院・介護保険施設で20年間勤務した経験に基づき講義を行う。					教科書(著者/書名/発行所) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第5版		
					キーワード 心電図検査、スパイロメータ、肺活量計、AED		
教育目標該当項目 ②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	総論	PTと内科の関わり、内科学の概念			山野井	
第2回	2	〃	内科臨床とリハビリ 診断と治療の実際			山野井	
第3回	2	循環器	循環器各論、先天性、心不全、不整脈、末梢血管疾患			山野井	
第4回	2	〃	〃			山野井	
第5回	2	呼吸器	肺の構造と生理、症候			山野井	
第6回	2	〃	感染性肺疾患、免疫学的機序が関与する肺疾患			山野井	
第7回	2	消化器	消化器の解剖・生理 検査法			山野井	
第8回	2	〃	消化器疾患各論 食道、胃、小腸、大腸			山野井	
第9回	2	肝胆膵	肝胆膵の形態機能 検査法			山野井	
第10回	2	〃	肝胆膵疾患各論			山野井	
第11回	2	〃	腹膜解剖生理 腹膜各論			山野井	
第12回	2	血液	血液・造血疾患 形態、生理、病態			山野井	
第13回	2	〃	血液・造血期疾患各論 赤血球疾患・出血性疾患			山野井	
第14回	2	代謝	代謝性疾患 総論・各論			山野井	
第15回	2	内分泌	内分泌腺の機能、解剖・生理			山野井	
第16回	2	〃	内分泌疾患の症候と病態			山野井	
第17回	2	泌尿器	腎の解剖と生理			山野井	
第18回	2	〃	腎泌尿器疾患各論			山野井	
第19回	2	〃	水・電解質代謝疾患(生理・調節)			山野井	
第20回	2	免疫	免疫の基礎、グロブリン			山野井	
第21回	2	〃	膠原病、アレルギー、免疫不全			山野井	
第22回	2	感染症	感染症総論(感染症の成立、診断、予防、治療)			山野井	
第23回	2	〃	感染症各論(細菌感染、スピロヘータ)寄生虫			山野井	
第24回	2	皮膚	皮膚疾患(構造、機能、病態、検査、各疾患)			山野井	
第25回	2	〃	〃			山野井	
第26回	2	診断学 総括	画像診断			山野井	
第27回	2	〃	生化学検査・心電図・その他			山野井	
第28回	2	救急救命医学	救急救命の実際①			山野井	
第29回	2	〃	救急救命の実際②			山野井	
第30回	2	まとめ	総括			山野井	
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	高澤 洋二	
21	×:非該当	神経障害論 (うち30時間)	開講時期	1年後期			
			授業時間	60			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として5年間、病院や介護施設で勤務した経験を活かした授業で、各論として脳血管障害と神経筋疾患を中心にその病因・病態・治療・予後について理解を図る。					教科書(著者/書名/発行所) 医療情報科学研究所/編集「病気がみえる7 脳・神経」メディックメディア		
教育目標該当項目 ②③					キーワード 脳血管障害・神経難病・画像評価(脳CT・MRI・脳波等)・薬物療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	脳血管障害①	総論(血管などの脳循環や疫学)を理解する。		高澤		
第2回	2	脳血管障害②	"		高澤		
第3回	2	脳血管障害③	虚血性脳血管障害について理解する。		高澤		
第4回	2	脳血管障害④	"		高澤		
第5回	2	脳血管障害⑤	出血性脳血管障害について理解する。		高澤		
第6回	2	脳血管障害⑥	"		高澤		
第7回	2	片麻痺患者の合併症①	肩手症候群、肩亜脱臼		高澤		
第8回	2	片麻痺患者の合併症②	半側空間無視、ブッシュャー症候群		高澤		
第9回	2	片麻痺患者の合併症③	認知症		高澤		
第10回	2	脳画像①	CTやMRIの基礎		高澤		
第11回	2	脳画像②	ケーススタディによる画像評価		高澤		
第12回	2	外傷性の神経障害	頭部外傷の症状と特徴		高澤		
第13回	2	高次脳機能障害①	劣位半球障害		高澤		
第14回	2	高次脳機能障害②	劣位半球障害		高澤		
第15回	2	高次脳機能障害③	劣位半球障害		高澤		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	臂 貴紀
21	×:非該当	神経障害論 (うち30時間)	開講時期	1年後期		
			授業時間	60		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位
科目概要・目的 理学療法士として5年間、病院や介護施設で勤務した経験を活かした授業で、各論として脳血管障害と神経筋疾患を中心にその病因・病態・治療・予後について理解を図る。					教科書(著者/書名/発行所) 医療情報科学研究所/編集「病気がみえる7 脳・神経」メディックメディア 水間正澄/リハビリテーション医療に活かす画像のみかた/南江堂	
教育目標該当項目 ②③					キーワード 脳血管障害・神経難病・画像評価(脳CT・MRI・脳波等)・薬物療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	高次脳機能障害④	優位半球障害		臂	
第2回	2	高次脳機能障害⑤	失語症と構音障害 脳画像から障害を予測できる。		臂	
第3回	2	パーキンソン病	大脳基底核の機能から病態生理を理解する。		臂	
第4回	2	〃	主症状や経過について理解する。		臂	
第5回	2	パーキンソン病関連疾患	パーキンソニズムについて理解する。		臂	
第6回	2	筋萎縮性側索硬化症	疾患概要や病態生理、画像上の変化を理解する。		臂	
第7回	2	〃	症状から生じる機能障害と能力障害		臂	
第8回	2	多発性硬化症	病態生理・主症状、画像上の変化について理解する		臂	
第9回	2	〃	症状から生じる機能障害と能力障害		臂	
第10回	2	脊髄小脳変性症	小脳の機能と協調運動障害		臂	
第11回	2	〃	病態生理・分類・画像上の変化		臂	
第12回	2	重症筋無力症・多発性筋炎	病態生理、主症状について理解する。		臂	
第13回	2	内科疾患と筋障害	病態生理、主症状について理解する。		臂	
第14回	2	感染性・中毒性疾患	各疾患の病態生理や主症状について理解する。		臂	
第15回	2	総括	総復習と共に国家試験の問題の確認を行う。		臂	
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
22	○: 該当	発達障害論	開講時期	1年後期	小松 昌久		
			授業時間	15			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として35年間、一般病院等での小児領域に対するリハビリテーションの経験を活かした講義で種々の疾患の発症要因と病態を理解できる。また、頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し、それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに、障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 上杉雅之 監修「イラストでわかる小児理学療法」医歯薬出版		
					キーワード 脳性麻痺、二分脊椎、染色体異常		
教育目標該当項目 ②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	脳性麻痺	脳性麻痺の概要について		小松		
第2回	2	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法について		小松		
第3回	2	二分脊椎	二分脊椎の発生原因や疾患の特徴について		小松		
第4回	2	二分脊椎	二分脊椎に対する運動療法について		小松		
第5回	2	水頭症・悪性腫瘍	各疾患に対する理解と運動療法について		小松		
第6回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	先天性奇形、Down症候群について		小松		
第7回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	各疾患に対する理解と運動療法について		小松		
第8回	2	総括	まとめ		小松		
評価方法		ミニテスト10%期末テスト80%授業態度10%で評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
23	×:非該当	老年学	開講時期	2年前期	持田 誠		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として10年、整形外科系病院で勤務した経験から理学療法を行なうためには、加齢に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。加齢とともに変化する身体機能、精神機能を整理し、疾患像をイメージできる。					教科書(著者/書名/発行所) 高齢者理学療法学テキスト 南江堂		
					キーワード 加齢による変化、老年症候群、サルコペニア、フレイル、認知症、脊椎疾患、末梢神経障害		
教育目標該当項目 ①②③							
回数	時間	テーマ		担当教員			
第1回	2	加齢による生理機能変化①	老化現象のうち、生理機能について	持田			
第2回	2	加齢による生理機能変化②	老化現象のうち、生理機能について	持田			
第3回	2	加齢による運動機能変化①	老化現象のうち、運動機能について	持田			
第4回	2	加齢による運動機能変化②	老化現象のうち、運動機能について	持田			
第5回	2	加齢による精神機能変化①	老化現象のうち、精神機能について	持田			
第6回	2	加齢による精神機能変化②	老化現象のうち、精神機能について	持田			
第7回	2	老年期に特有の疾患・障害	老年症候群	持田			
第8回	2	老年期に特有の疾患・障害	フレイル	持田			
第9回	2	老年期に特有の疾患・障害	サルコペニア	持田			
第10回	2	老年期に特有の疾患・障害	認知症	持田			
第11回	2	老年期に特有の疾患・障害	脊椎疾患	持田			
第12回	2	老年期に特有の疾患・障害	骨粗しょう症	持田			
第13回	2	老年期に特有の疾患・障害	末梢神経障害	持田			
第14回	2	老年期に特有の疾患・障害	誤嚥性肺炎	持田			
第15回	2	老年期に特有の疾患・障害	褥瘡	持田			
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
24	×:非該当	リハビリテーション概論	開講時期	1年前期	小川 紀子		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	講義
科目概要・目的 保健・医療・福祉の専門職である理学療法士として業務を実施するために必要な、リハビリテーションの理念、社会保障制度について理解する。また、理学療法を受ける患者や利用者の様々なニーズに対して対応できるように、保健・医療・福祉の各領域についての法制度の動向やサービスの内容を理解する。理学療法士として病院にて十二年勤務した経験をもとにした授業である。					教科書(著者/書名/発行所) 鶴見隆正 編「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」医学書院 細田多穂「理学療法概論テキスト」南江堂		
教育目標該当項目 ③④⑤⑥					キーワード リハビリテーションの理念、社会保障制度(医療・福祉制度、法規、関連制度)		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	リハビリテーションの理念	リハビリテーションの語源・定義・種類・目的を理解する。		小川		
第2回	2	障害と心理	障害を持つ患者の心理を理解する。		小川		
第3回	2	障害分類	障害分類であるICIDH・ICFについて理解する。		小川		
第4回	2	ICIDH・ICFの実践	ICIDH・ICFを実践することで理解を深める。		小川		
第5回	2	ノーマライゼーションとは	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザインについて理解する。		小川		
第6回	2	社会保障制度	社会保障制度の定義・分類・優先順位・種類について理解する。		小川		
第7回	2	医療保険	医療保険制度について理解する。		小川		
第8回	2	年金保険	公的年金制度について理解する。		小川		
第9回	2	介護保険	介護保険について理解する。		小川		
第10回	2	難病とは	国の難病対策について理解する。		小川		
第11回	2	社会福祉の分野とサービス	社会福祉六法について理解する。		小川		
第12回	2	障害者手帳とは	各種法律・手帳について理解する。		小川		
第13回	2	生活保護法	生活保護法について理解する。		小川		
第14回	2	老人福祉法 他	老人福祉法・高齢者の医療の確保に関する法律・健康増進法について理解する。		小川		
第15回	2	国家試験対策	国家試験過去問題演習と解説		小川		
評価方法		課題の提出状況及び試験の結果を総合的に判断する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
25	×:非該当	多職種連携論	開講時期	1年後期	小川紀子	小川紀子	
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位	講義
科目概要・目的 患者・家族にとって最適の医療を効率的に提供するためには、職種間協働にもとづく「チーム医療」の推進が必要である。講義では、医療の枠にとらわれず、これから健康・医療・福祉の専門職を目指すものとして、対象者を中心としたチーム医療の意義、多職種間のコミュニケーションの知識・技術およびその重要性を学ぶ。理学療法士として一般病院5年間、介護老人保健施設8年間の実務経験を活かした授業である。					教科書(著者/書名/発行所) 細田多穂「理学療法概論テキスト」南江堂		
					キーワード 多職種連携・チーム医療の中での専門職種とその役割・職業倫理・リスクマネジメント・クリニカルパス		
教育目標該当項目 ④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	多職種連携の場所とは	リハビリテーション医療・職業リハビリテーション・地域リハビリテーションについて理解する。		小川		
第2回	2	リハビリテーションの流れ	リハビリテーション・理学療法の流れについて理解する。		小川		
第3回	2	社会資源について	社会資源について理解する。		小川		
第4回	2	患者中心の医療	患者中心の医療について理解する。		小川		
第5回	2	多職種連携	チームアプローチ・チーム医療について理解する。		小川		
第6回	2	医療・福祉の専門職種	医療・福祉の専門職種について理解する。		小川		
第7回	2	職業倫理	専門職に求められる職業倫理について理解する。		小川		
第8回	2	身分法	理学療法士及び作業療法士法について理解する。		小川		
第9回	2	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントについて理解する。		小川		
第10回	2	守秘義務	守秘義務・個人情報保護法について理解する。		小川		
第11回	2	リスクマネジメント	リスクマネジメントについて理解する。		小川		
第12回	2	感染予防	感染予防について理解する。		小川		
第13回	2	クリニカルパス・EBM	クリニカルパス・EBMについて理解する。		小川		
第14回	2	施設基準と診療報酬	理学療法に関連する施設基準と報酬について理解する。		小川		
第15回	2	事例検討	ロールプレイング(事例に対して多職種連携の実際を学ぶ)		小川		
評価方法		課題の提出状況及び試験の結果を総合的に判断する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
26	×:非該当	生活環境論	開講時期	1年後期	小川 紀子		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1単位	演習
科目概要・目的 生活環境は、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在するものである。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、そのための基本的な理念と知識について学習する。理学療法士として一般病院5年間、介護老人保健施設8年間の実務経験を活かした授業である。					教科書(著者/書名/発行所) 鶴見隆正 編「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第5版」 医学書院		
					キーワード 家族・家庭・住環境・地域環境・職場環境・環境の構造・環境と固体		
教育目標該当項目 ③④⑤							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	生活環境学の概念	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・アクセシビリティについて理解する。			小川	
第2回	2						
第3回	2	生活環境を構成する要素	生活環境を構成する要素について理解する。			小川	
第4回	2	物理的環境	物理的環境について理解する。			小川	
第5回	2	車椅子	車椅子の分類・種類・指導方法について理解する。			小川	
第6回	2	歩行補助具	歩行補助具の種類・機能・適応について理解する。			小川	
第7回	2	自助具・補装具	自助具・補装具の種類・適応について理解する。			小川	
第8回	2	経済的環境	経済的環境について理解する。			小川	
第9回	2	制度的環境	制度的環境について理解する。			小川	
第10回	2	人的環境	人的環境について理解する。			小川	
第11回	2	住宅・住宅改修	生活環境としての住宅・住宅改修			小川	
第12回	2	住宅改修の実践	建築知識の基本と図面化			小川	
第13回	2	住環境整備の基本的配慮	住宅部位への配慮			小川	
第14回	2		各部屋への配慮			小川	
第15回	2	地域環境と公共交通	地域環境と公共交通について理解する			小川	
評価方法		共通ルーブリック①②③⑦⑨					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
27	×:非該当	運動療法総論	開講時期	1年後期	江原 裕作		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として整形外科病院にて十二年勤務した経験から、新人理学療法士として勤務する上で必要と思われる運動療法の基礎的な原理と方法を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 吉尾 雅春・他 編「運動療法学 総論」医学書院		
教育目標該当項目 ②③					キーワード 疲労、筋力増強運動、全身調整運動、基本動作、全身持久力、ストレッチング、知覚・感覚・筋再教育		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	運動療法	疲労			江原	
第2回	2	運動療法	関節可動域運動・ストレッチング			江原	
第3回	2	運動療法	筋力増強運動			江原	
第4回	2	運動療法	筋持久力			江原	
第5回	2	運動療法	痛みに対する運動療法			江原	
第6回	2	運動療法	全身調整運動			江原	
第7回	2	運動療法	基本動作練習			江原	
第8回	2	運動療法	歩行練習			江原	
第9回	2	運動療法	筋再教育			江原	
第10回	2	運動療法	感覚・知覚再教育			江原	
第11回	2	運動療法	協調運動			江原	
第12回	2	運動療法	バランス練習			江原	
第13回	2	運動療法	全身持久力			江原	
第14回	2	運動療法	運動学習			江原	
第15回	2	運動療法	各種の治療手技			江原	
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	臂 貴紀
28	×:非該当	臨床運動学	開講時期	2年前期	担当者	臂 貴紀
			授業時間	60		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2単位
科目概要・目的 理学療法士として5年、病院や介護施設で勤務した経験を活かした授業で、リハビリテーションの臨床現場では力学的に物事を考え、臨床意思決定を行う機会が多くあります。例えば動作の介助や誘導のキーポイントを考えたり、異常動作の原因を推論することが重要となります。そのため、臨床的に用いられる観察を中心とした運動分析、動作分析を講義を通して学習する。					演習 教科書(著者/書名/発行所) 石井慎一郎 編著「動作分析臨床活用講座」メディカルビュー社	
教育目標該当項目 ②					キーワード 立位・坐位・起居移動動作・筋電図・動画での観察・分析	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	正常の姿勢	立位姿勢 前額面からの観察点を理解する。		臂	
第2回	2	立位姿勢	矢状面からの観察点を理解する。		臂	
第3回	2	立位姿勢の観察	観察点の知識を基に、立位観察を記載できる。		臂	
第4回	2	立位姿勢の分析①	姿勢の原因を解剖運動学側面にて理解できる。		臂	
第5回	2	立位姿勢の分析②	姿勢の原因を解剖運動学側面にて理解できる。		臂	
第6回	2	坐位の姿勢	正常の坐位姿勢の特徴を理解する。		臂	
第7回	2	坐位の姿勢観察	坐位姿勢観察を行いシートに記載できる。		臂	
第8回	2	坐位姿勢の分析①	姿勢の原因を解剖運動学側面にて理解できる。		臂	
第9回	2	寝返り	寝返り動作の仕組み、観察のポイントを理解する。		臂	
第10回	2	寝返り観察	所定のシートに寝返りの観察を記載する。		臂	
第11回	2	寝返りでの逸脱動作	逸脱の代表的なパターンを理解する。		臂	
第12回	2	寝返りの逸脱の原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第13回	2	起き上がり	起き上がりの仕組み、観察のポイントを理解する。		臂	
第14回	2	起き上がり観察	所定のシートに起き上がりの観察を記載する		臂	
第15回	2	起き上がりの逸脱動作	逸脱の代表的なパターンを理解する。		臂	
第16回	2	起き上がりの逸脱の原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第17回	2	起き上がりの逸脱の原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第18回	2	立ち上がり	正常の立ち上がり動作について理解する。		臂	
第19回	2	立ち上がりの観察	所定のシートに立ち上がりの観察を記載する。		臂	
第20回	2	立ち上がりでの逸脱動作	逸脱の代表的なパターンを理解する。		臂	
第21回	2	立ち上がりでの逸脱の原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第22回	2	歩行①	正常の歩行動作の特徴について理解する。		臂	
第23回	2	歩行②	正常の歩行動作の特徴について理解する。		臂	
第24回	2	歩行の観察	所定のシートに歩行の観察を記載する。		臂	
第25回	2	歩行での逸脱動作	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第26回	2	歩行での逸脱の原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第27回	2	歩行での逸脱の原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第28回	2	症例動作分析①	動画にて逸脱動作の観察・分析表現ができる。		臂	
第29回	2	症例動作分析②	動画にて逸脱動作の観察・分析表現ができる。		臂	
第30回	2	総括	まとめ		臂	
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	小川紀子	
29	○: 該当	理学療法管理学	開講時期	3年前期	担当者	小川紀子	
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士は、院外、施設外に視野を広げ地域全体のリハビリテーションに関わる機会が多くなるため、その拠点となるリハビリテーション科の組織を強化していかなければならない。5年間のリハビリテーション管理職経験を持つ教員と臨床で働く現職管理職理学療法士を外部講師に招き、組織の能力を最大限に発揮させるための具体的な管理・教育について系統的に学び、リハビリテーション部門の管理について理解を深める。					教科書(著者/書名/発行所) 金谷さとみ他「リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック」 MEDICALVIEW		
教育目標該当項目 ②③					キーワード リハビリテーション及び理学療法部門の管理運営・安全管理(インシデント、感染対策等)・情報管理(診療録記録、個人情報保護等)		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	リハビリテーション科における管理	専門職の職場管理・OJT・上司と部下の関係		小川		
第2回	2	組織化①	組織とは何か・部門別体制・質的管理		小川		
第3回	2	組織化②	リハビリテーション部門組織		外部講師		
第4回	2	業務管理	病棟・施設業務管理		外部講師		
第5回	2	人事労務管理	倫理的原則・人事計画・インセンティブ		外部講師		
第6回	2	教育システム①	生涯学習・キャリア形成・人材育成法		外部講師		
第7回	2	教育システム②	職能団体とは・臨床実習指導方法		小川		
第8回	2	管理職とは	リーダーシップ・マネジメント		小川		
第9回	2	リスクマネジメント①	リスクマネジメントとは・苦情対応		小川		
第10回	2	リスクマネジメント②	安全管理(インシデント、感染対策等)		小川		
第11回	2	経営管理①	効果的な収益管理		外部講師		
第12回	2	経営管理②	物品管理と費用対効果		外部講師		
第13回	2	地域保健・医療・福祉①	地域医療連携		外部講師		
第14回	2	地域保健・医療・福祉②	介護予防活動		外部講師		
第15回	2	地域保健・医療・福祉③	対外活動の重要性		小川		
評価方法		初講時に提示する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	菊地 潤
30	× : 非該当	理学療法評価学	開講時期	1年後期		
			授業時間	60		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士として診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、理学療法の一連の流れにおける評価の位置づけを説明し、評価の意義・目的について理解する。評価方法の種類や主な検査測定項目を学ぶ。本講義では関節可動域測定、Danielsらの徒手筋力検査、四肢長・周径を中心に実施し、その検査の目的や結果の解釈について理解する。					教科書(著者/書名/発行所) 松澤 正 著「理学療法評価学」 金原出版株式会社 Dale Avers・他 著「新・徒手筋力検査法 原著第10版」協同医書出版社	
					キーワード バイタルサイン、四肢長、周径、関節可動域、筋力	
教育目標該当項目 ①②③						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	理学療法評価の位置づけ	評価の一連の流れや目的について			菊地
第2回	2	情報収集	患者情報等の情報収集について			菊地
第3回	2	バイタルサイン	覚醒状態や脈、血圧について			菊地
第4回	2	形態測定①	四肢長の概要について			菊地
第5回	2	形態測定②	検査の実施、記録			菊地
第6回	2	形態測定③	周径の概要について			菊地
第7回	2	形態測定④	検査の実施、記録			菊地
第8回	2	関節可動域測定①	関節可動域測定の定義について			菊地
第9回	2	関節可動域測定②	肩関節の測定法			菊地
第10回	2	関節可動域測定③	肘関節・前腕の測定法			菊地
第11回	2	関節可動域測定④	手関節・手指の測定法			菊地
第12回	2	関節可動域測定⑤	股関節の測定法			菊地
第13回	2	関節可動域測定⑥	膝関節・足関節・足部の測定法			菊地
第14回	2	関節可動域測定⑦	頸部・胸腰部の測定法			菊地
第15回	2	関節可動域測定⑧	肩甲帯の測定法			菊地
第16回	2	徒手筋力検査①	徒手筋力検査の定義について			菊地
第17回	2	徒手筋力検査②	股関節の筋力検査①			菊地
第18回	2	徒手筋力検査③	股関節の筋力検査②			菊地
第19回	2	徒手筋力検査④	膝関節の筋力検査①			菊地
第20回	2	徒手筋力検査⑤	足関節・足部の筋力検査①			菊地
第21回	2	徒手筋力検査⑥	肩甲骨周囲筋の筋力検査①			菊地
第22回	2	徒手筋力検査⑦	肩甲骨周囲筋の筋力検査②			菊地
第23回	2	徒手筋力検査⑧	肩関節の筋力検査①			菊地
第24回	2	徒手筋力検査⑨	肩関節の筋力検査②			菊地
第25回	2	徒手筋力検査⑩	肘関節・前腕の筋力検査①			菊地
第26回	2	徒手筋力検査⑪	手関節の筋力検査①			菊地
第27回	2	徒手筋力検査⑫	体幹の筋力検査①			菊地
第28回	2	徒手筋力検査⑬	体幹の筋力検査②			菊地
第29回	2	徒手筋力検査⑭	頸部の筋力検査			菊地
第30回	2	まとめ	学習のまとめ			菊地
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	高澤 洋二	
31	×:非該当	理学療法評価学演習	開講時期	2年前期	担当者	高澤 洋二	
			授業時間	120			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーションにて6年間の実務経験を活かした授業で、理学療法の一連の流れにおける評価の位置づけを説明し、評価の意義・目的について講義する。評価方法の種類、主な検査測定項目、評価結果の記録・解釈について説明する。また、各種の評価結果を統合・解釈する方法を学び、疾患の症状について理解を深める。					教科書(著者/書名/発行所) 松澤 正 著「理学療法評価学」 金原出版株式会社		
教育目標該当項目 ①②⑥					キーワード 身体測定、関節可動域、筋力		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	整形外科疾患検査①	体幹部疾患検査について		高澤		
第2回	2	整形外科疾患検査②	上肢疾患検査について		高澤		
第3回	2	整形外科疾患検査③	下肢疾患検査について		高澤		
第4回	2	整形外科疾患検査④	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第5回	2	疼痛検査①	疼痛について		高澤		
第6回	2	疼痛検査②	疼痛検査方法について		高澤		
第7回	2	疼痛検査③	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第8回	2	知覚検査①	知覚について		高澤		
第9回	2	知覚検査②	表在感覚検査について		高澤		
第10回	2	知覚検査③	深部・複合感覚検査について		高澤		
第11回	2	知覚検査④	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第12回	2	反射検査①	表在・深部腱反射検査について		高澤		
第13回	2	反射検査②	病的反射検査について		高澤		
第14回	2	反射検査③	姿勢反射検査について		高澤		
第15回	2	反射検査④	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第16回	2	筋緊張検査①	筋緊張について		高澤		
第17回	2	筋緊張検査②	被動性・懸振性検査について		高澤		
第18回	2	筋緊張検査③	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第19回	2	脳神経検査①	脳神経について		高澤		
第20回	2	脳神経検査②	脳神経検査について		高澤		
第21回	2	脳神経検査③	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第22回	2	片麻痺運動機能検査①	ブルンストローム法検査について		高澤		
第23回	2	片麻痺運動機能検査②	ブルンストローム法検査 ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ		高澤		
第24回	2	片麻痺運動機能検査③	ブルンストローム法検査 ステージⅣ・Ⅴ・Ⅵ		高澤		
第25回	2	片麻痺運動機能検査④	12段階式片麻痺機能検査①		高澤		
第26回	2	片麻痺運動機能検査⑤	12段階式片麻痺機能検査②		高澤		
第27回	2	片麻痺運動機能検査⑥	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第28回	2	認知機能検査①	認知機能について		高澤		
第29回	2	認知機能検査②	改訂長谷川式簡易知能評価スケール MMSEについて		高澤		
第30回	2	認知機能検査③	各検査結果の記録、解釈について		高澤		

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	高澤 洋二	
31	×:非該当	理学療法評価学演習	開講時期	2年前期	担当者	高澤 洋二	
			授業時間	120			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーションにて6年間の実務経験を活かした授業で、理学療法の一連の流れにおける評価の位置づけを説明し、評価の意義・目的について講義する。評価方法の種類、主な検査測定項目、評価結果の記録・解釈について説明する。また、各種の評価結果を統合・解釈する方法を学び、疾患の症状について理解を深める。					教科書(著者/書名/発行所)		
					松澤 正 著「理学療法評価学」 金原出版株式会社		
教育目標該当項目 ①②⑥					キーワード		
					身体測定、関節可動域、筋力		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第31回	2	高次脳機能検査①	高次脳機能について		高澤		
第32回	2	高次脳機能検査②	失語・失認に対する検査		高澤		
第33回	2	高次脳機能検査③	失行に対する検査		高澤		
第34回	2	高次脳機能検査④	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第35回	2	協調性検査①	運動失調の分類について		高澤		
第36回	2	協調性検査②	協調性検査について		高澤		
第37回	2	協調性検査③	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第38回	2	バランス検査①	バランスについて		高澤		
第39回	2	バランス検査②	ロンベルグ試験・マン試験・片脚立位試験について		高澤		
第40回	2	バランス検査③	FRT・BBS・TUGについて		高澤		
第41回	2	バランス検査④	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第42回	2	呼吸・循環・代謝検査①	身体の持久性について		高澤		
第43回	2	呼吸・循環・代謝検査②	血圧・脈拍測定・6分間歩行について		高澤		
第44回	2	呼吸・循環・代謝検査③	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第45回	2	日常生活活動検査①	日常生活活動について		高澤		
第46回	3	日常生活活動検査②	Barthel Indexについて		高澤		
第47回	4	日常生活活動検査③	FIMについて①		高澤		
第48回	2	日常生活活動検査④	FIMについて②		高澤		
第49回	2	日常生活活動検査⑤	FIMについて③		高澤		
第50回	2	日常生活活動検査⑥	各検査結果の記録、解釈について		高澤		
第51回	2	評価結果の統合と解釈①	各評価のつながりについて①		高澤		
第52回	2	評価結果の統合と解釈②	各評価のつながりについて②		高澤		
第53回	2	評価結果の統合と解釈③	統合と解釈について①		高澤		
第54回	2	評価結果の統合と解釈④	統合と解釈について②		高澤		
第55回	2	評価結果の統合と解釈⑤	実際の評価結果を用いて統合と解釈の実施①		高澤		
第56回	2	評価結果の統合と解釈⑥	実際の評価結果を用いて統合と解釈の実施②		高澤		
第57回	2	まとめ①			高澤		
第58回	2	まとめ②			高澤		
第59回	2	まとめ③			高澤		
第60回	2	まとめ④			高澤		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
32	×:非該当	理学療法評価技術論	開講時期	2年後期	担当者	専任
			授業時間	120		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーションにて6年間の実務経験を活かした授業で、各症例情報をもとに基礎的知識の確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく。					演習	
教育目標該当項目 ①②③					教科書(著者/書名/発行所)	指定しない
					キーワード	基礎知識、理学療法評価、統合と解釈、リスク管理
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	理学療法評価の流れ①	一般的情報、医学的情報、社会的情報について		高澤	
第2回	2	理学療法評価の流れ②	理学療法評価項目の立案について		高澤	
第3回	2	理学療法評価の流れ③	理学療法評価方法の検討		高澤	
第4回	2	理学療法評価の流れ④	理学療法評価結果の解釈		高澤	
第5回	2	整形(膝関節疾患)症例①	膝関節に関する基礎知識の確認①		菊地	
第6回	2	整形(膝関節疾患)症例②	膝関節に関する基礎知識の確認②		菊地	
第7回	2	整形(膝関節疾患)症例③	膝関節疾患に関する病態の整理		菊地	
第8回	2	整形(膝関節疾患)症例④	膝関節疾患に関する薬理		菊地	
第9回	2	整形(膝関節疾患)症例⑤	膝関節疾患に対する画像診断①		菊地	
第10回	2	整形(膝関節疾患)症例⑥	膝関節疾患に対する画像診断②		菊地	
第11回	2	整形(膝関節疾患)症例⑦	膝関節疾患に対する理学療法評価①		菊地	
第12回	2	整形(膝関節疾患)症例⑧	膝関節疾患に対する理学療法評価②		菊地	
第13回	2	整形(膝関節疾患)症例⑨	膝関節疾患に対する理学療法評価③		菊地	
第14回	2	整形(膝関節疾患)症例⑩	膝関節疾患に対する統合と解釈①		菊地	
第15回	2	整形(膝関節疾患)症例⑪	膝関節疾患に対する統合と解釈②		菊地	
第16回	2	整形(膝関節疾患)症例⑫	膝関節疾患に対する統合と解釈③		菊地	
第17回	2	整形(膝関節疾患)症例⑬	膝関節疾患に対する統合と解釈④		菊地	
第18回	2	整形(膝関節疾患)症例⑭	膝関節疾患に対する統合と解釈⑤		菊地	
第19回	2	整形(膝関節疾患)症例⑮	膝関節疾患に対するまとめ		菊地	
第20回	2	整形(股関節疾患)症例①	股関節に関する基礎知識の確認①		小池	
第21回	2	整形(股関節疾患)症例②	股関節に関する基礎知識の確認②		小池	
第22回	2	整形(股関節疾患)症例③	股関節疾患に関する病態の整理		小池	
第23回	2	整形(股関節疾患)症例④	股関節疾患に関する薬理		小池	
第24回	2	整形(股関節疾患)症例⑤	股関節疾患に関する画像診断①		小池	
第25回	2	整形(股関節疾患)症例⑥	股関節疾患に関する画像診断②		小池	
第26回	2	整形(股関節疾患)症例⑦	股関節疾患に対する理学療法評価①		小池	
第27回	2	整形(股関節疾患)症例⑧	股関節疾患に対する理学療法評価②		小池	
第28回	2	整形(股関節疾患)症例⑨	股関節疾患に対する理学療法評価③		小池	
第29回	2	整形(股関節疾患)症例⑩	股関節疾患に対する統合と解釈①		小池	
第30回	2	整形(股関節疾患)症例⑪	股関節疾患に対する統合と解釈②		小池	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任	
32	×:非該当	理学療法評価技術論	開講時期	2年後期			
			授業時間	120			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	4単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーションにて6年間の実務経験を活かした授業で、各症例情報をもとに基礎的知識の確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく。					教科書(著者/書名/発行所) 指定しない		
教育目標該当項目 ①②③					キーワード 基礎知識、理学療法評価、統合と解釈、リスク管理		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第31回	2	整形(股関節疾患)症例⑫	股関節疾患に対する統合と解釈③		小池		
第32回	2	整形(股関節疾患)症例⑬	股関節疾患に対する統合と解釈④		小池		
第33回	2	整形(股関節疾患)症例⑭	股関節疾患に対する統合と解釈⑤		小池		
第34回	2	整形(股関節疾患)症例⑮	股関節疾患に対するまとめ		小池		
第35回	2	中枢(片麻痺)症例①	片麻痺疾患に関する基礎知識の確認①		高澤		
第36回	2	中枢(片麻痺)症例②	片麻痺疾患に関する基礎知識の確認②		高澤		
第37回	2	中枢(片麻痺)症例③	片麻痺疾患に関する病態の整理①		高澤		
第38回	2	中枢(片麻痺)症例④	片麻痺疾患に関する病態の整理②		高澤		
第39回	2	中枢(片麻痺)症例⑤	片麻痺疾患に対する薬理		高澤		
第40回	2	中枢(片麻痺)症例⑥	片麻痺疾患に対する画像診断		高澤		
第41回	2	中枢(片麻痺)症例⑦	片麻痺疾患に対する理学療法評価①		高澤		
第42回	2	中枢(片麻痺)症例⑧	片麻痺疾患に対する理学療法評価②		高澤		
第43回	2	中枢(片麻痺)症例⑨	片麻痺疾患に対する理学療法評価③		高澤		
第44回	2	中枢(片麻痺)症例⑩	片麻痺疾患に対する統合と解釈①		高澤		
第45回	2	中枢(片麻痺)症例⑪	片麻痺疾患に対する統合と解釈②		高澤		
第46回	2	中枢(片麻痺)症例⑫	片麻痺疾患に対する統合と解釈③		高澤		
第47回	2	中枢(片麻痺)症例⑬	片麻痺疾患に対する統合と解釈④		高澤		
第48回	2	中枢(片麻痺)症例⑭	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑤		高澤		
第49回	2	中枢(片麻痺)症例⑮	片麻痺疾患に対するまとめ		高澤		
第50回	2	リスク管理について①	各疾患に対する症状別のリスク管理①		山野井		
第51回	2	リスク管理について②	各疾患に対する症状別のリスク管理②		山野井		
第52回	2	リスク管理について③	各疾患に対する症状別のリスク管理③		山野井		
第53回	2	リスク管理について④	各疾患に対する症状別のリスク管理④		山野井		
第54回	2	リスク管理について⑤	救急救命処置①		山野井		
第55回	2	リスク管理について⑥	救急救命処置②		山野井		
第56回	2	総括①	まとめ①		高澤		
第57回	2	総括②	まとめ②		高澤		
第58回	2	総括③	まとめ③		高澤		
第59回	2	総括④	まとめ④		高澤		
第60回	2	総括⑤	まとめ⑤		高澤		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	小池 武則	
33	×:非該当	整形障害理学療法	開講時期	2年前期			
			授業時間	60			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として整形外科病院にて13年勤務した経験から、新人理学療法士として勤務する上で必要と思われる理学療法の展開法について授業する。具体的には整形障害領域の理学療法評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 島田洋一・他著/運動器疾患の治療とリハビリテーション/メジカルビュー社		
教育目標該当項目 ②③④					キーワード ①各疾患の病態 ②各疾患の画像診断 ③各疾患の理学療法評価 ④各疾患の理学療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	疼痛の評価と治療	安静時痛・動作時痛の評価と治療			小池	
第2回	2	疼痛の評価と治療	CRPSの評価と治療			小池	
第3回	2	保存療法における理学療法①	変形性膝関節症の評価と治療			小池	
第4回	2	保存療法における理学療法②	変形性股関節症の評価と治療			小池	
第5回	2	保存療法における理学療法③	腰椎椎間板ヘルニアの評価と治療			小池	
第6回	2	保存療法における理学療法④	腰部脊柱管狭窄症の評価と治療			小池	
第7回	2	保存療法における理学療法⑤	頸椎症性神経根症の評価と治療			小池	
第8回	2	保存療法における理学療法⑥	肩関節周囲炎の評価と治療			小池	
第9回	2	保存療法における理学療法⑦	退行変性疾患の画像診断			小池	
第10回	2	手術療法における理学療法①	大腿骨頸部骨折の評価			小池	
第11回	2	手術療法における理学療法②	大腿骨頸部骨折の治療			小池	
第12回	2	手術療法における理学療法③	THA術後の評価と治療			小池	
第13回	2	手術療法における理学療法④	TKA術後の評価			小池	
第14回	2	手術療法における理学療法⑤	TKA術後の治療			小池	
第15回	2	手術療法における理学療法⑥	骨折・人工関節置換術の画像診断			小池	
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	菊地 潤	
33	×:非該当	整形障害理学療法 (うち30時間)	開講時期	2年前期			
			授業時間	60			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として診療所にて15年勤務した経験から、新人理学療法士として勤務する上で必要と思われる理学療法の展開法について授業する。具体的には整形障害領域の理学療法評価の意味と、理学療法プログラムの選択について、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 島田洋一・他著/運動器疾患の治療とリハビリテーション/メジカルビュー社		
教育目標該当項目 ②③④					キーワード ①各疾患の病態 ②各疾患の理学療法評価 ③各疾患の理学療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	ACL損傷に対する理学療法	症状と評価		菊地		
第2回	2	ACL損傷に対する理学療法	画像診断と手術		菊地		
第3回	2	ACL損傷に対する理学療法	治療①		菊地		
第4回	2	ACL損傷に対する理学療法	治療②		菊地		
第5回	2	半月板損傷に対する理学療法	症状と評価		菊地		
第6回	2	半月板損傷に対する理学療法	画像診断と手術		菊地		
第7回	2	半月板損傷に対する理学療法	治療		菊地		
第8回	2	アキレス腱断裂に対する理学療法	症状と評価		菊地		
第9回	2	アキレス腱断裂に対する理学療法	画像診断と手術		菊地		
第10回	2	アキレス腱断裂に対する理学療法	治療		菊地		
第11回	2	関節リウマチに対する理学療法	症状と評価①		菊地		
第12回	2	関節リウマチに対する理学療法	評価②		菊地		
第13回	2	関節リウマチに対する理学療法	画像診断と薬剤薬理		菊地		
第14回	2	関節リウマチに対する理学療法	治療		菊地		
第15回	2	絞扼性神経障害に対する理学療法	症状と評価・治療		菊地		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	高澤 洋二	
34	×:非該当	神経障害理学療法 (うち30時間)	開講時期	2年前期			
			授業時間	60			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーションにて6年間の実務経験を活かした授業で、解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする。					教科書(著者/書名/発行所) 医療情報科学研究所/編集「病気がみえる7 脳・神経」メディックメディア		
教育目標該当項目 ②③④					キーワード 脳血管障害、PD、SCD、ALS、MS TBI、脳腫瘍、認知障害、 高次脳機能障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	片麻痺について①	片麻痺患者の急性期① 褥瘡・排尿障害			高澤	
第2回	2	片麻痺について②	片麻痺患者の急性期② 摂食・嚥下障害			高澤	
第3回	2	片麻痺について③	片麻痺患者の回復期① 高次脳機能障害・認知症			高澤	
第4回	2	片麻痺について④	片麻痺患者の回復期② 前庭性めまい			高澤	
第5回	2	片麻痺について⑤	片麻痺患者の維持期			高澤	
第6回	2	片麻痺患者の姿勢	片麻痺患者の姿勢メカニズムと代償			高澤	
第7回	2	片麻痺患者の動作①	片麻痺患者の寝返り・起き上がりのメカニズムと代償			高澤	
第8回	2	片麻痺患者の動作②	片麻痺患者の立ち上がりのメカニズムと代償			高澤	
第9回	2	片麻痺患者の歩行	片麻痺患者の歩行メカニズムと代償			高澤	
第10回	2	片麻痺患者の治療①	BSR I～IIへの治療			高澤	
第11回	2	片麻痺患者の治療②	BSR II～IIIへの治療			高澤	
第12回	2	片麻痺患者の治療③	BSR III～IVへの治療			高澤	
第13回	2	片麻痺患者の治療④	BSR IV～Vへの治療②			高澤	
第14回	2	片麻痺患者の治療⑤	BSR V～VIへの治療②			高澤	
第15回	2	総括	まとめ			高澤	
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	臂 貴紀
34	×:非該当	神経障害理学療法 (うち30時間)	開講時期	2年前期		
			授業時間	60		
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		単位数	2単位 演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーションにて6年間の実務経験を活かした授業で、解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする。					教科書(著者/書名/発行所) 医療情報科学研究所/編集「病気がみえる7 脳・神経」メディックメディア 水間正澄/リハビリテーション医療に活かす画像のみかた/南江堂	
教育目標該当項目 ②③④					キーワード 脳血管障害、PD、SCD、ALS、MS TBI、脳腫瘍、認知障害、 高次脳機能障害	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	パーキンソン病	運動障害と非運動障害のリハビリテーションを理解する。		臂	
第2回	2	〃	重症度や薬効用に合わせたリハビリテーションを理解する。		臂	
第3回	2	〃	ケーススタディ		臂	
第4回	2	筋萎縮性側索硬化症	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌を理解する。		臂	
第5回	2	〃	呼吸状態に合わせて、人工呼吸器管理、吸引、排痰の方法について理解する。		臂	
第6回	2	多発性硬化症	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌理解する。		臂	
第7回	2	〃	ステロイド療法等、医学的治療に合わせた理学療法に関わり方を理解する。		臂	
第8回	2	〃	ケーススタディ		臂	
第9回	2	脊髄小脳変性症	協調運動障害のリハビリテーションを理解する。		臂	
第10回	2	〃	SCDの分類ごとのリハビリテーションを理解する。		臂	
第11回	2	重症筋無力症・多発性筋炎	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌を理解する。		臂	
第12回	2	外傷性脳損傷・脳腫瘍	重症度に合わせたリハビリテーションを理解する。画像所見から理学療法の注意点リスクを理解する。		臂	
第13回	2	筋ジストロフィー	病態生理・症状、筋電図等の検査所見を理解する。		臂	
第14回	2	〃	各病型の進行の速度と程度を理解する。		臂	
第15回	2	〃	病期・病型に合わせた理学療法を理解する。		臂	
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	山野井 裕子
35	×:非該当	内部障害理学療法	開講時期	2年前期		
			授業時間	60		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	2単位
科目概要・目的					演習	
<p>近年、生活習慣病を基盤とした内部障害系疾患は増加の一途をたどっている。内部障害は文字通り、その障害が外から見えにくいいため、病態の理解が重要となる。本授業では、担当者が理学療法士として病院・介護保険施設に20年間勤務した経験に基づき、呼吸器・循環器・代謝疾患の病態を理解し、リスク管理を行いながら適切な理学療法を行えるよう講義を行う。</p>					教科書(著者/書名/発行所) 内部障害系理学療法学 第2版(標準理学療法学、医学書院)	
教育目標該当項目					キーワード	
②③④					呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患、リスク管理	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器の解剖・生理		山野井	
第2回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸不全の病態		山野井	
第3回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患		山野井	
第4回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患		山野井	
第5回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸機能の評価		山野井	
第6回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸機能の評価		山野井	
第7回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸理学療法		山野井	
第8回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸理学療法		山野井	
第9回	2	循環器疾患に対する理学療法	ケーススタディ		山野井	
第10回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器の解剖・生理		山野井	
第11回	2	循環器疾患に対する理学療法	運動負荷試験		山野井	
第12回	2	循環器疾患に対する理学療法	虚血性心疾患		山野井	
第13回	2	循環器疾患に対する理学療法	虚血性心疾患		山野井	
第14回	2	循環器疾患に対する理学療法	回復期理学療法		山野井	
第15回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全		山野井	
第16回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全		山野井	
第17回	2	循環器疾患に対する理学療法	心電図		山野井	
第18回	2	循環器疾患に対する理学療法	心電図		山野井	
第19回	2	循環器疾患に対する理学療法	ケーススタディ		山野井	
第20回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の定義と診断		山野井	
第21回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の急性合併症と慢性合併症		山野井	
第22回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の治療		山野井	
第23回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の評価と理学療法		山野井	
第24回	2	代謝疾患に対する理学療法	動脈硬化(脂質異常症、メタボリックシンドローム)		山野井	
第25回	2	代謝疾患に対する理学療法	ケーススタディ		山野井	
第26回	2	腎障害に対する理学療法	腎臓の解剖・生理		山野井	
第27回	2	腎障害に対する理学療法	慢性腎臓病と治療		山野井	
第28回	2	がんに対する理学療法	各病期に対する介入方法		山野井	
第29回	2	検査数値の読み方	検査数値の読み方		山野井	
第30回	2	身体所見(バイタル)のとり方	バイタル測定とリスク管理について		山野井	
評価方法	評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
36	○:該当	物理療法	開講時期	2年前期	江原 裕作		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として一般病院にて14年間の実務経験を活かした授業で、基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。各治療機器を用いて実習を行い、治療を行えるようにする。					教科書(著者/書名/発行所) 理学療法学テキストⅩ 物理療法 九州神陵文庫		
教育目標該当項目 ②③					キーワード 電気刺激療法・電磁波療法・光線療法・超音波療法・水治療法・牽引療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	電気療法①	総論		江原		
第2回	2	電気療法②	低周波療法①について		江原		
第3回	2	電気療法③	低周波療法②について		江原		
第4回	2	電気療法④	極超短波療法について		江原		
第5回	2	電気療法⑤	超音波療法について		江原		
第6回	2	牽引療法①	総論・頸椎牽引について		江原		
第7回	2	牽引療法②	腰椎牽引について		江原		
第8回	2	温熱療法①	総論・ホットパックについて		江原		
第9回	2	温熱療法②	パラフィン浴について		江原		
第10回	2	寒冷療法①	総論・一般寒冷療法について		江原		
第11回	2	寒冷療法②	極低温療法について		江原		
第12回	2	光線療法	総論・紫外線・赤外線・レーザー光線療法について		江原		
第13回	2	水治療法①	総論・全身浴について		江原		
第14回	2	水治療法②	部分浴について		江原		
第15回	2	まとめ			江原		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
37	○:該当	義肢・装具学	開講時期	2年前期	時田 幸之輔		
			授業時間	30			
			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	1単位
科目概要・目的 理学療法士として総合病院5年間の実務経験を活かした授業。義肢・装具が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。義肢・装具について医師や義肢装具士などと十分な議論を交わすことのできる能力は、作成する能力以上に求められる。授業では、様々な義肢・装具の適応と特性について理解することを目標とする。					教科書(著者/書名/発行所) 「装具学」医歯薬出版 「切断と義肢」医歯薬出版		
教育目標該当項目 ②③					キーワード 切断、大腿義足、股義足、下腿義足 末梢神経損傷、脊髄損傷 骨関節疾患、中枢神経疾患		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	切断	切断原因・切断部位について説明出来る。		時田		
第2回	2	義足の部品	義足の膝継手・足継手について説明出来る。		時田		
第3回	2	大腿義足ソケット	各種大腿義足ソケットについて説明出来る。		時田		
第4回	2	大腿義足のアライメント-1	大腿義足のベンチアライメント、静的アライメントについて説明出来る。		時田		
第5回	2	大腿義足のアライメント-2	大腿義足の動的アライメントについて説明出来る。		時田		
第6回	2	下腿義足のソケット	各種下腿義足ソケットについて説明出来る。		時田		
第7回	2	下腿義足のアライメント	下腿義足の各種アライメントについて説明出来る。		時田		
第8回	2	股義足	股義足のソケット・アライメントについて説明出来る。		時田		
第9回	2	装具学総論	装具の目的と力学的基礎について説明出来る。		時田		
第10回	2	末梢神経損傷 に対する上肢装具	末梢神経損傷に対する上肢装具について説明出来る。		時田		
第11回	2	脊髄損傷 に対する上下肢装具	脊髄損傷に対する上下肢装具について説明出来る。		時田		
第12回	2	骨折に対する下肢装具	骨折に対する免荷装具について説明出来る。		時田		
第13回	2	体幹装具	各種体幹装具について説明出来る。		時田		
第14回	2	脳血管障害片麻痺 に対する下肢装具	片麻痺に対する下肢装具の適応について説明出来る。		時田		
第15回	2	総括	総復習と練習問題		時田		
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
38	×:非該当	理学療法技術論 I	開講時期	3年後期		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4 単位
科目概要・目的 一般病院やクリニックなどで5年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					教科書(著者/書名/発行所) 講義開始前に指定する	
					キーワード 国家試験対策、各障害論、評価	
教育目標該当項目						
②③						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	循環器	心臓の解剖			山野井
第2回	2	循環器	動脈の解剖			山野井
第3回	2	循環器	静脈の解剖			山野井
第4回	2	循環器	リンパ管の解剖			山野井
第5回	2	循環器	血液			山野井
第6回	2	循環器	心臓生理			山野井
第7回	2	循環器	循環制御			山野井
第8回	2	循環器	運動生理			山野井
第9回	2	循環器	脈管病理			山野井
第10回	2	循環器	血圧測定			山野井
第11回	2	循環器	画像・血液所見・聴診			山野井
第12回	2	循環器	心電図			山野井
第13回	2	循環器	冠疾患			山野井
第14回	2	循環器	冠疾患リハ			山野井
第15回	2	循環器	心不全・心疾患			山野井
第16回	2	循環器	心不全・心疾患リハ			山野井
第17回	2	循環器	脈管疾患			山野井
第18回	2	循環器	その他			山野井
第19回	2	呼吸器	呼吸器解剖			山野井
第20回	2	呼吸器	換気生理			山野井
第21回	2	呼吸器	呼吸運動			山野井
第22回	2	呼吸器	呼吸器疾患			山野井
第23回	2	呼吸器	スパイロメータ			山野井
第24回	2	呼吸器	フローボリューム曲線			山野井
第25回	2	呼吸器	画像・聴診			山野井
第26回	2	呼吸器	分類			山野井
第27回	2	呼吸器	COPD リハ			山野井
第28回	2	呼吸器	体位ドレナージ			山野井
第29回	2	呼吸器	吸引			山野井
第30回	2	呼吸器	人工呼吸器			山野井

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
38	×:非該当	理学療法技術論 I	開講時期	3年後期		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4 単位
科目概要・目的 一般病院やクリニックなどで5年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					教科書(著者/書名/発行所) 講義開始前に指定する	
					キーワード 国家試験対策、各障害論、評価	
教育目標該当項目						
②③						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第31回	2	呼吸器	その他 呼吸リハ			山野井
第32回	2	中枢	脳血管			高澤
第33回	2	中枢	大脳			高澤
第34回	2	中枢	大脳基底核			高澤
第35回	2	中枢	大脳辺縁系			高澤
第36回	2	中枢	脳その他			高澤
第37回	2	中枢	脊髄反射弓			高澤
第38回	2	中枢	神経伝達物質			高澤
第39回	2	中枢	体性感覚			高澤
第40回	2	中枢	脳波			高澤
第41回	2	CVA	CVA 一般症状			高澤
第42回	2	CVA	CVA 視床病変			高澤
第43回	2	CVA	CVA クモ膜下出血・水頭症			高澤
第44回	2	CVA	CVA その他症状			高澤
第45回	2	CVA	画像			高澤
第46回	2	CVA	評価			高澤
第47回	2	CVA	高次脳機能障害			高澤
第48回	2	CVA	肩手症候群			高澤
第49回	2	CVA	急性期			高澤
第50回	2	CVA	一般的な理学療法			高澤
第51回	2	CVA	装具			高澤
第52回	2	CVA	外傷性脳損傷			高澤
第53回	2	CVA	臨床判断			高澤
第54回	2	運動器	骨 総論			小池
第55回	2	運動器	関節・靭帯 総論			小池
第56回	2	運動器	筋 生理			小池
第57回	2	運動器	筋 附着部			小池
第58回	2	運動器	触診・その他			小池
第59回	2	運動器	皮膚			小池
第60回	2	運動器	股関節			小池

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
38	×:非該当	理学療法技術論 I	開講時期	3年後期		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4単位
科目概要・目的 一般病院やクリニックなどで5年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					教科書(著者/書名/発行所)	
					講義開始前に指定する	
教育目標該当項目 ②③					キーワード	
					国家試験対策、各障害論、評価	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第61回	2	運動器	膝関節		小池	
第62回	2	運動器	下腿～足関節～足部		小池	
第63回	2	運動器	肩関節		小池	
第64回	2	運動器	肘関節		小池	
第65回	2	運動器	前腕～手～指		小池	
第66回	2	運動器	体幹・頭部		小池	
第67回	2	運動器	基礎 その他		小池	
第68回	2	運動器	整形テスト・筋長テスト		小池	
第69回	2	運動器	画像所見		菊地	
第70回	2	運動器	ROM訓練		菊地	
第71回	2	運動器	筋力増強		菊地	
第72回	2	運動器	骨折 疾患		菊地	
第73回	2	運動器	骨折 合併症		菊地	
第74回	2	運動器	骨折 リハ		菊地	
第75回	2	運動器	OA 疾患		菊地	
第76回	2	運動器	OA リハ		菊地	
第77回	2	運動器	ACL リハ		菊地	
第78回	2	評価	ROM 測定法 3点		菊地	
第79回	2	評価	ROM 測定法 1点 基本軸・移動軸		菊地	
第80回	2	評価	ROM 測定法 1点 肢位		菊地	
第81回	2	評価	ROM 参考可動域		菊地	
第82回	2	評価	ROM 特殊		菊地	
第83回	2	評価	ROM その他		菊地	
第84回	2	評価	MMT 測定法 3点		菊地	
第85回	2	評価	MMT 測定法 1点 肢位		菊地	
第86回	2	評価	MMT 測定法 1点 その他		菊地	
第87回	2	評価	MMT 代償		菊地	
第88回	2	評価	MMT 触診		菊地	
第89回	2	評価	MMT その他		菊地	
第90回	2	評価	形態測定		菊地	
評価方法		試験による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
39	×:非該当	理学療法技術論Ⅱ	開講時期	3年		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	6単位
科目概要・目的 理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					演習	
					教科書(著者/書名/発行所) 講義開始前に指定する	
教育目標該当項目 ②③					キーワード	
					①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	代謝	代謝 解剖・生理		山野井	
第2回	2	代謝	DM・他		山野井	
第3回	2	代謝	DM リハ		山野井	
第4回	2	代謝	代謝リハ 計算など		山野井	
第5回	2	代謝	代謝リハ その他		山野井	
第6回	2	神経筋疾患	PD		臂	
第7回	2	神経筋疾患	PD・リハ		臂	
第8回	2	神経筋疾患	SCD		臂	
第9回	2	神経筋疾患	SCD・リハ		臂	
第10回	2	神経筋疾患	MS		臂	
第11回	2	神経筋疾患	MS・リハ		臂	
第12回	2	神経筋疾患	GBS		臂	
第13回	2	神経筋疾患	GBS・リハ		臂	
第14回	2	神経筋疾患	ALS		臂	
第15回	2	神経筋疾患	ALS・リハ		臂	
第16回	2	神経筋疾患	MG		臂	
第17回	2	神経筋疾患	ニューロパチー(CMT)		臂	
第18回	2	神経筋疾患	多発性筋炎		臂	
第19回	2	神経筋疾患	めまい		臂	
第20回	2	神経筋疾患	筋ジス		臂	
第21回	2	神経筋疾患	筋ジス・リハ		臂	
第22回	2	神経筋疾患	その他 疾患		臂	
第23回	2	神経筋疾患	その他 リハ		臂	
第24回	2	末梢神経	総論		小池	
第25回	2	末梢神経	走行・神経叢		小池	
第26回	2	末梢神経	筋神経支配		小池	
第27回	2	末梢神経	感覚支配		小池	
第28回	2	末梢神経	運動単位		小池	
第29回	2	末梢神経	神経伝導		小池	
第30回	2	末梢神経	神経線維		小池	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
39	×:非該当	理学療法技術論Ⅱ	開講時期	3年		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	6単位
科目概要・目的 理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					演習 教科書(著者/書名/発行所) 講義開始前に指定する	
教育目標該当項目 ②③					キーワード ①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第31回	2	末梢神経	筋収縮		小池	
第32回	2	末梢神経	末梢神経障害の病態		小池	
第33回	2	末梢神経	末梢神経障害の症状		小池	
第34回	2	末梢神経	末梢神経障害 評価・リハ		小池	
第35回	2	末梢神経	ポリオ リハ		小池	
第36回	2	運動器	RA 疾患・合併症・評価		菊地	
第37回	2	運動器	RA 変形・ADL・リハ		菊地	
第38回	2	運動器	軟部組織損傷 疾患		菊地	
第39回	2	運動器	軟部組織損傷 リハ		菊地	
第40回	2	運動器	ヘルニア・狭窄症 疾患		菊地	
第41回	2	運動器	ヘルニア・狭窄症 リハ		菊地	
第42回	2	評価	感覚検査		高澤	
第43回	2	評価	反射		高澤	
第44回	2	評価	バランス評価		高澤	
第45回	2	評価	老研式		高澤	
第46回	2	評価	尺度		高澤	
第47回	2	評価	その他		高澤	
第48回	2	評価	臨床判断		高澤	
第49回	2	老年	加齢変化		小川	
第50回	2	ADL	BI・FIM採点、評価		小川	
第51回	2	ADL	疾患別 ADL		小川	
第52回	2	ADL	車椅子		小川	
第53回	2	ADL	環境整備		小川	
第54回	2	ADL	諸ADL定義		小川	
第55回	2	ADL	杖		小川	
第56回	2	ADL	その他		小川	
第57回	2	物療	温熱療法		菊地	
第58回	2	物療	極超短波		菊地	
第59回	2	物療	寒冷療法		菊地	
第60回	2	物療	超音波療法		菊地	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
39	×:非該当	理学療法技術論Ⅱ	開講時期	3年		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	6単位
科目概要・目的 理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					教科書(著者/書名/発行所) 講義開始前に指定する	
					キーワード ①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法	
教育目標該当項目						
②③						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第61回	2	物療	電気刺激療法			菊地
第62回	2	物療	水治療法			菊地
第63回	2	物療	電気生理学的検査			菊地
第64回	2	物療	疾患別			菊地
第65回	2	物療	その他			菊地
第66回	2	臨床心理学	防衛機制			小川
第67回	2	臨床心理学	心理テスト・検査			小川
第68回	2	臨床心理学	心理療法・人物名			小川
第69回	2	臨床心理学	心理的発達			小川
第70回	2	臨床心理学	記憶			小川
第71回	2	精神医学	転移・逆転移・面接			小川
第72回	2	精神医学	症状			小川
第73回	2	精神医学	統合失調症			小川
第74回	2	精神医学	うつ病			小川
第75回	2	精神医学	てんかん			持田
第76回	2	精神医学	アルコール依存症			小川
第77回	2	精神医学	小児			小川
第78回	2	精神医学	PTSD・神経症			小川
第79回	2	精神医学	認知症			高澤
第80回	2	精神医学	薬物療法			小川
第81回	2	精神医学	その他			小川
第82回	2	その他	運動学習			高澤
第83回	2	その他	内分泌			持田
第84回	2	その他	内分泌疾患			持田
第85回	2	その他	自律神経			小池
第86回	2	その他	免疫			持田
第87回	2	その他	炎症			持田
第88回	2	その他	体温			持田
第89回	2	その他	基礎代謝			高森
第90回	2	その他	長期臥床・褥瘡・廃用症候群			持田
評価方法		試験による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
40	×:非該当	理学療法技術論Ⅲ	開講時期	3年		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	6単位
科目概要・目的 理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					演習 教科書(著者/書名/発行所) 講義開始前に指定する	
教育目標該当項目 ②③					キーワード ①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	消化器	消化器解剖		小池	
第2回	2	消化器	門脈		小池	
第3回	2	消化器	消化生理		小池	
第4回	2	消化器	排便機構		小池	
第5回	2	消化器	消化器疾患(肝・膵)		小池	
第6回	2	消化器	消化器疾患(消化管)		小池	
第7回	2	泌尿器	泌尿器解剖		小池	
第8回	2	泌尿器	泌尿器生理		小池	
第9回	2	泌尿器	排尿 神経機構		小池	
第10回	2	泌尿器	慢性腎不全		山野井	
第11回	2	泌尿器	慢性腎不全リハ		山野井	
第12回	2	脳幹・脳神経	総論		臂	
第13回	2	脳幹・脳神経	視覚・視覚器		臂	
第14回	2	脳幹・脳神経	聴覚・聴覚器		臂	
第15回	2	脳幹・脳神経	口腔(嚥下・味覚)		臂	
第16回	2	脳幹・脳神経	顎運動		臂	
第17回	2	脳幹・脳神経	嚥下障害		臂	
第18回	2	脳幹・脳神経	ワレンベルグ症候群		臂	
第19回	2	脳幹・脳神経	顔面の解剖生理		臂	
第20回	2	脳幹・脳神経	顔面のMMT		臂	
第21回	2	脳幹・脳神経	顔面神経麻痺		臂	
第22回	2	脊髄損傷	脊髄(伝導路)解剖		小池	
第23回	2	脊髄損傷	脊損 疾患 部分損傷		小池	
第24回	2	脊髄損傷	脊損 疾患 その他		小池	
第25回	2	脊髄損傷	脊損 合併症 自律神経過反射		小池	
第26回	2	脊髄損傷	脊損 合併症 異所性骨化		小池	
第27回	2	脊髄損傷	脊損 合併症 その他		小池	
第28回	2	脊髄損傷	脊損 疾患評価 Frankel		小池	
第29回	2	脊髄損傷	脊損 疾患評価 ASIA		小池	
第30回	2	脊髄損傷	脊損 疾患評価 Zancolli		小池	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
40	×:非該当	理学療法技術論Ⅲ	開講時期	3年		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	6単位
科目概要・目的 理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					教科書(著者/書名/発行所)	
					講義開始前に指定する	
教育目標該当項目 ②③					キーワード	
					①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第31回	2	脊髄損傷	髄節別 ADLなど C5		小池	
第32回	2	脊髄損傷	髄節別 ADLなど C6		小池	
第33回	2	脊髄損傷	髄節別 ADLなど C7		小池	
第34回	2	脊髄損傷	髄節別 ADLなど その他		小池	
第35回	2	脊髄損傷	髄節判定		小池	
第36回	2	脊髄損傷	脊損PT 画像所見		小池	
第37回	2	脊髄損傷	脊損PT 一般問題		小池	
第38回	2	脊髄損傷	二分脊椎		小池	
第39回	2	運動器	脊柱 リハ その他		菊地	
第40回	2	運動器	切断 疾患		菊地	
第41回	2	運動器	切断 リハ		菊地	
第42回	2	運動器	熱傷 疾患		菊地	
第43回	2	運動器	熱傷 リハ		菊地	
第44回	2	運動器	骨端症		菊地	
第45回	2	運動器	CRPS		菊地	
第46回	2	運動器	骨粗鬆症		菊地	
第47回	2	運動器	その他疾患		菊地	
第48回	2	運動器	整形リハ その他		菊地	
第49回	2	小児	正常発達		臂	
第50回	2	小児	反射		臂	
第51回	2	小児	CP		臂	
第52回	2	小児	その他 リハ		臂	
第53回	2	バイオメカニクス	基礎物理 用語		小池	
第54回	2	バイオメカニクス	力学 計算		小池	
第55回	2	バイオメカニクス	立位姿勢		臂	
第56回	2	バイオメカニクス	歩行		臂	
第57回	2	バイオメカニクス	運動分析		臂	
第58回	2	バイオメカニクス	異常歩行		臂	
第59回	2	補装具	上肢装具		臂	
第60回	2	補装具	体幹装具		臂	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
40	×:非該当	理学療法技術論Ⅲ	開講時期	3年		
			授業時間	180		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	6単位
科目概要・目的 理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する					演習	
					教科書(著者/書名/発行所) 講義開始前に指定する	
教育目標該当項目 ②③					キーワード	
					①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第61回	2	補装具	靴型装具		臂	
第62回	2	補装具	SLB		臂	
第63回	2	補装具	SHB		臂	
第64回	2	補装具	膝継手・部品など		臂	
第65回	2	補装具	長下肢装具		臂	
第66回	2	補装具	その他下肢装具		臂	
第67回	2	補装具	大腿義足部品		臂	
第68回	2	補装具	大腿義足ADL		臂	
第69回	2	補装具	その他義足		臂	
第70回	2	統計	統計		山野井	
第71回	2	概論	地域・介護保険系		小川	
第72回	2	概論	PTOT法		小川	
第73回	2	概論	個人情報保護法		小川	
第74回	2	概論	その他 法律・制度		小川	
第75回	2	概論	福祉用語		小川	
第76回	2	概論	ICF・ICIDH		小川	
第77回	2	概論	標準予防策		持田	
第78回	2	概論	感染症		持田	
第79回	2	概論	クリニカルパス		小川	
第80回	2	概論	対応・その他		小川	
第81回	2	腫瘍	病理		山野井	
第82回	2	腫瘍	腫瘍 疾患 脳腫瘍		臂	
第83回	2	腫瘍	腫瘍 疾患 その他		高森	
第84回	2	腫瘍	腫瘍 リハ		高森	
第85回	2	その他	薬物療法		持田	
第86回	2	その他	発生		持田	
第87回	2	その他	細胞		持田	
第88回	2	その他	萎縮		持田	
第89回	2	その他	アレルギー		持田	
第90回	2	その他	眼疾患		持田	
評価方法		試験による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	小川紀子	
41	×:非該当	日常生活活動学	開講時期	2年前期	担当者	小川紀子	
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4単位	講義
科目概要・目的 日常生活活動(ADL)は、障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念である。その概念とQOLについて理解し、各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。理学療法士として一般病院5年間、介護老人保健施設8年間の実務経験を活かした授業である。					教科書(著者/書名/発行所) 鶴見隆正 編「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 第4版」 医学書院 木村哲彦 編「新イラストによる 安全な動作介助の手引き」 医歯薬出版		
					キーワード ADL、IADL、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具、家族への指導		
教育目標該当項目 ②③④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	日常・生活・活動とは	日常・生活・活動について理解する。		小川		
第2回	2	ADLの概念	ADLの概念・分類について理解する。		小川		
第3回	2	ADLの範囲	APDL・IADLについて理解する。		小川		
第4回	2	ADLとQOL	ADLとQOLの関係について理解する。		小川		
第5回	2	QOL評価法	QOLの評価法について理解する。		小川		
第6回	2	ADLと運動学①	運動を左右する条件について理解する。		小川		
第7回	2	ADLと運動学②	代償運動について理解する。		小川		
第8回	2	ADLと運動学③	動作分析とADL指導について理解する。		小川		
第9回	2	できるADL・しているADL	できるADL・しているADL・目標とするADLについて理解する。		小川		
第10回	2	ADL評価のチェックポイント①	食事・整容・更衣動作のチェックポイントを理解する。		小川		
第11回	2	ADL評価のチェックポイント②	トイレ・入浴・移動動作のチェックポイントを理解する。		小川		
第12回	2	各疾患のADL指導①	片麻痺・脊髄損傷のADL指導について理解する。		小川		
第13回	2				小川		
第14回	2	各疾患のADL指導②	脳性麻痺・関節リウマチのADL指導について理解する。		小川		
第15回	2				小川		
第16回	2	各疾患のADL指導③	人工股関節術後・下肢切断のADL指導について理解する。		小川		
第17回	2				小川		
第18回	2	各疾患のADL指導④	呼吸器・循環器疾患のADL指導について理解する。		小川		
第19回	2				小川		
第20回	2	各疾患のADL指導⑤	神経筋疾患・難病・視覚障害のADL指導について理解する。		小川		
第21回	2				小川		
第22回	2	動作介助①	動作介助の意義・介助の原則を理解する。 ボディメカニクス・介助の程度を理解する。		小川		
第23回	2				小川		
第24回	2	動作介助②	代表的な姿勢・ポジショニング・シーティング ベッド上移動・寝返りの介助方法		小川		
第25回	2				小川		
第26回	2	動作介助③	起き上がり・立ち上がりの介助方法 トランスファー(移乗)		小川		
第27回	2				小川		
第28回	2	動作介助④	歩行介助・階段昇降介助 事例を用いた応用的な介助・援助の実践		小川		
第29回	2				小川		
第30回	2	国家試験対策	国家試験過去問題演習と解説		小川		
評価方法		初講時に提示する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
42	○:該当	地域リハビリテーションⅠ	開講時期	2年前期	菊地 裕美		
			授業時間	15			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として5年以上の経験に基づいて、地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。					教科書(著者/書名/発行所) 重森 健太「地域リハビリテーション学 第2版」羊土社		
					キーワード 地域リハビリテーションの理念、介護保険法、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム		
教育目標該当項目 ②③④⑤							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	地域リハビリテーションの理念・歴史	地域リハビリテーションの理念と歴史的背景、現在の動向について理解する。			菊地	
第2回	2	地域リハビリテーション関連法規	介護保険法について理解する。			菊地	
第3回	2	地域リハビリテーション関連法規	障害者総合支援法について理解する。			菊地	
第4回	2	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムの考え方、実際について理解する。			菊地	
第5回	2	地域における社会資源	社会福祉協議会など、地域における社会資源について理解する。			菊地	
第6回	2	地域理学療法	地域における理学療法の必要性を理解し、介入根拠を説明できる。			菊地	
第7回	2	地域理学療法	地域における理学療法の評価・治療について説明できる。			菊地	
第8回	2	地域における連携	地域リハビリテーションに関連する専門職種を理解し、連携方法を理解する。			菊地	
評価方法		評価指標による					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	菊地 裕美
43	○:該当	地域リハビリテーションⅡ	開講時期	3年前期		
			授業時間	15		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	1単位
科目概要・目的					講義	
理学療法士として5年以上の経験に基づいて、地域リハビリテーションの中で、理学療法士が行う実践活動を見学するまた、グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。					教科書(著者/書名/発行所)	
					重森 健太「地域リハビリテーション学第2版」羊土社	
教育目標該当項目					キーワード	
②④⑤⑥					地域での関わり、生活期、予防・健康増進	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	地域における介入方法の実際	施設での理学療法		菊地	
第2回	2	地域における介入方法の実際	施設での理学療法		菊地	
第3回	2	地域における介入方法の実際	通所理学療法		菊地	
第4回	2	地域における介入方法の実際	通所理学療法		菊地	
第5回	2	地域における介入方法の実際	訪問理学療法		菊地	
第6回	2	地域における介入方法の実際	訪問理学療法		菊地	
第7回	2	地域における介入方法の実際	疾病、再発、障害予防		菊地	
第8回	2	地域における介入方法の実際	疾病、再発、障害予防		菊地	
評価方法		評価指標による				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専任	担当者	専任
44	○:該当	臨床実習 I	開講時期 1年通年 授業時間 45			
□実務経験のある教員による授業				単位数 1 単位	実習	
科目概要・目的 臨床現場を見学し、医療人・社会人としての意識を高め、自己が目指す理学療法士という職業を確認する。今後の学習の必要性を認識し、学習意欲を高める動機づけにする。また、患者や職員と関わることで、コミュニケーション能力を高める。				教科書(著者/書名/発行所) 指定しない		
教育目標該当項目 ①④⑤⑥				キーワード 対人関係技法・医療面接・インフォームドコンセント・個人情報、情報管理		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	1)医療人・社会人としての意識を持つことができる。 2)理学療法士の業務を見学することで、これからどんな学習が必要なのかを認識できる。 3)自分が目指している職業(理学療法士)を具体的にイメージできる。	関連施設にて見学実習を行う。			
第2回	2					
第3回	2					
第4回	2					
第5回	2					
第6回	2					
第7回	2					
第8回	2					
第9回	2					
第10回	2					
第11回	2					
第12回	2					
第13回	2					
第14回	2					
第15回	2					
第16回	2					
第17回	2					
第18回	2					
第19回	2					
第20回	2					
第21回	2					
第22回	2					
第23回	2					
第24回	2					
第25回	2					
第26回	2					
第27回	2					
第28回	2					
第29回	2					
第30回	2					
第31回	2					
第32回	2					
第33回	2					
第34回	2					
第35回	2					
第36回	2					
第37回	2					
第38回	2					
第39回	2					
第40回	2					
第41回	2					
第42回	2					
第43回	3					
第44回	4					
第45回	2					
評価方法		臨床実習要綱に従う				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
45	○:該当	臨床実習Ⅱ	開講時期	2年後期	担当者	専任
			授業時間	270		
□実務経験のある教員による授業					単位数	6単位
科目概要・目的 実習施設の機能や特徴を把握し、理学療法士の業務と役割、他職種との連携、患者との関わり方について学ぶ。また、これまでに履修したことのうち、特に検査・測定を中心に、知識・技術の整理を行い、実習指導者のもとで患者に応用し、検査・測定の結果を解釈することで、患者の状態を把握することを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 指定しない	
					キーワード 検査、測定・記録、報告	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	① 理学療法士としての基本的な態度をとることができる。 ② 検査・測定に伴うリスク管理が行える。 ③ 検査・測定を正確に実施できる。 ④ 検査・測定結果を記録用紙等に記載できる。 ⑤ 検査・測定から得られた結果を考察できる。 ⑥ 学習したことを日誌にまとめ臨床実習指導者に報告できる。 ※検査・測定には姿勢・動作観察を含まない。	臨床現場の各施設にて検査・測定実習を行う。			
第2回	2					
第3回	2					
第4回	2					
第5回	2					
第6回	2					
第7回	2					
第8回	2					
第9回	2					
第10回	2					
第11回	2					
第12回	2					
第13回	2					
第14回	2					
第15回	2					
第16回	2					
第17回	2					
第18回	2					
第19回	2					
第20回	2					
第21回	2					
第22回	2					
第23回	2					
第24回	2					
第25回	2					
第26回	2					
第27回	2					
第28回	2					
第29回	2					
第30回	2					
第31回	2					
第32回	2					
第33回	2					
第34回	2					
第35回	2					
第36回	2					
第37回	2					
第38回	2					
第39回	2					
第40回	2					
第41回	2					
第42回	2					
第43回	3					
第44回	4					
第45回	2					
評価方法		臨床実習要綱に従う				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
46	○:該当	臨床実習Ⅲ	開講時期	2年後期	担当者	専任
			授業時間	270		
□実務経験のある教員による授業					単位数	6単位
科目概要・目的 実習指導者のもとで検査・測定 of 技術を確実にするとともに、患者のもつ諸問題のうち理学療法の適応となる問題を把握するため、評価結果から問題点を抽出できるようにすることを目的とする。また、理学療法士として必要な情報収集・記録・報告ができ、さらに医療専門職としての責任ある態度・行動を獲得することを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 指定しない	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥					キーワード 医学的情報の理解・問題点の抽出・全体像の把握	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	① 理学療法士としての基本的な態度をとることができる。	臨床現場の各施設にて評価実習を行う。			
第2回	2	② 関連部門から必要な情報を収集できる。				
第3回	2	③ 必要な評価項目を選択できる。				
第4回	2	④ 評価に伴うリスク管理が行える。				
第5回	2	⑤ 評価を正確に実施できる。				
第6回	2	⑥ 評価結果を記録用紙等に記載できる。				
第7回	2	⑦ 評価から得られた結果を考察できる。				
第8回	2	⑧ 評価結果から問題点を抽出できる。				
第9回	2	⑨ 学習したことを日誌にまとめ臨床実習指導者に報告できる。				
第10回	2	※評価には姿勢・動作観察を含む。				
第11回	2					
第12回	2					
第13回	2					
第14回	2					
第15回	2					
第16回	2					
第17回	2					
第18回	2					
第19回	2					
第20回	2					
第21回	2					
第22回	2					
第23回	2					
第24回	2					
第25回	2					
第26回	2					
第27回	2					
第28回	2					
第29回	2					
第30回	2					
第31回	2					
第32回	2					
第33回	2					
第34回	2					
第35回	2					
第36回	2					
第37回	2					
第38回	2					
第39回	2					
第40回	2					
第41回	2					
第42回	2					
第43回	2					
第44回	2					
第45回	2					
評価方法		臨床実習要綱に従う				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
47	○:該当	臨床実習Ⅳ	開講時期	3年前期	担当者	専任
			授業時間	45		
□実務経験のある教員による授業					単位数	1単位
科目概要・目的 地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設(訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等)での見学実習を通して学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 指定しない	
					キーワード 地域理学療法・介護保険法・Community-based-rehabilitation・地域包括ケア	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	① 職員、対象者に対して適切な態度でコミュニケーションをとれる。	臨床現場の各施設にて見学実習を行う。			
第2回	2					
第3回	2					
第4回	2					
第5回	2					
第6回	2					
第7回	2					
第8回	2	② 各施設で提供しているサービス内容を把握できる。				
第9回	2					
第10回	2	③ 各施設での理学療法士の業務内容と役割を理解できる。				
第11回	2					
第12回	2	④ 対象者の理学療法ニーズを把握できる。				
第13回	2					
第14回	2	⑤ 理学療法に必要な人的資源を説明できる。				
第15回	2					
第16回	2	⑥ 理学療法に必要な制度的資源を説明できる。				
第17回	2					
第18回	2	⑦ 理学療法に必要な経済的資源を説明できる。				
第19回	2					
第20回	2					
第21回	2					
第22回	2					
第23回	2					
第24回	2					
第25回	2					
第26回	2					
第27回	2					
第28回	2					
第29回	2					
第30回	2					
第31回	2					
第32回	2					
第33回	2					
第34回	2					
第35回	2					
第36回	2					
第37回	2					
第38回	2					
第39回	2					
第40回	2					
第41回	2					
第42回	2					
第43回	3					
第44回	4					
第45回	2					
評価方法		臨床実習要綱に従う				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	専任
48	○:該当	臨床実習 V	開講時期	3年	担当者	専任
			授業時間	270		
□実務経験のある教員による授業					単位数	6 単位
科目概要・目的 評価・問題点抽出に加え、目標設定・治療計画立案・基本的理学療法手段の実施という一連の流れができることを目的とする。また、これまでの臨床実習で明らかになった自分の課題を認識して遂行するとともに、学内で学んだ知識・技術を応用することを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 指定しない	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥					キーワード 目標の設定・治療プログラム立案・他部門との連携	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	① 理学療法士としての基本的な態度をとることができる。	臨床現場の各施設にて総合臨床実習を行う。			
第2回	2	② 関連部門から必要な情報を収集できる。				
第3回	2	③ 必要な評価項目を選択できる。				
第4回	2	④ 評価・基本的理学療法手段に伴うリスク管理が行える。				
第5回	2	⑤ 評価・基本的理学療法手段を正確に実施できる。				
第6回	2	⑥ 評価結果・基本的理学療法手段を記録できる。				
第7回	2	⑦ 評価から得られた結果を考察できる。				
第8回	2	⑧ 評価結果から問題点を抽出できる。				
第9回	2	⑨ 治療目標を設定できる。				
第10回	2	⑩ 治療計画の立案ができる。				
第11回	2	⑪ 症例に対して治療目的と方法を説明できる。				
第12回	2	⑫ 学習したことを日誌にまとめ臨床実習指導者に報告できる。				
第13回	2					
第14回	2					
第15回	2					
第16回	2					
第17回	2					
第18回	2					
第19回	2					
第20回	2					
第21回	2					
第22回	2					
第23回	2					
第24回	2					
第25回	2					
第26回	2					
第27回	2					
第28回	2					
第29回	2					
第30回	2					
第31回	2					
第32回	2					
第33回	2					
第34回	2					
第35回	2					
第36回	2					
第37回	2					
第38回	2					
第39回	2					
第40回	2					
第41回	2					
第42回	2					
第43回	3					
第44回	4					
第45回	2					
評価方法		臨床実習要綱に従う				